

CA ARCserve[®] Backup for Windows

Agent for Lotus Domino ユーザ ガイド

r12



本書及び関連するソフトウェア ヘルプ プログラム(以下「本書」と総称)は、ユーザへの情報提供のみを目的とし、CA はその内容を予告なく変更、撤回することがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複写、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。本書は、CA または CA Inc. が権利を有する秘密情報でかつ財産的価値のある情報で、アメリカ合衆国及び日本国の著作権法並びに国際条約により保護されています。

上記にかかわらず、ライセンスを受けたユーザは、社内で使用する場合に限り本書の合理的な範囲内の部数のコピーを作成でき、またバックアップおよび災害復旧目的に限り合理的な範囲内で関連するソフトウェアのコピーを一部作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を各コピーに添付することを条件とします。

ユーザの認可を受け、プロダクトのライセンス条項を遵守する、従業員、法律顧問、および代理人のみがかかるコピーを利用することを許可されます。

本書のコピーを印刷し、関連するソフトウェアのコピーを作成する上記の権利は、プロダクトに適用されるライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、そのライセンスが終了した場合には、ユーザは CA に本書の全部または一部を複製したコピーを CA に返却したか、または破棄したことを文書で証明する責任を負います。

該当するライセンス契約書に記載されている場合を除き、準拠法により認められる限り、CA は本書を現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対する不侵害についての黙示の保証を含むいかなる保証もしません。また、本書の使用が直接または間接に起因し、逸失利益、業務の中断、営業権の喪失、情報の損失等いかなる損害が発生しても、CA はユーザまたは第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害について明示に通告されていた場合も同様とします。

本書及び本書に記載されたプロダクトは、該当するエンドユーザ ライセンス契約書に従い使用されるものです。

本書の制作者は CA および CA Inc. です。

「制限された権利」のもとでの提供:アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212, 52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、及び、DFARS Section 252.227-7014(b)(3)または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

本書に記載された全ての商標、商号、サービスマークおよびロゴは、それぞれの各社に帰属します。

Copyright © 2008 CA. All rights reserved.

CA 製品の参照

このマニュアルが参照している CA の製品は以下のとおりです。

- Advantage™ Ingres®
- BrightStor® ARCserve® Backup for Laptops and Desktops
- BrightStor® CA-1® Tape Management
- BrightStor® CA-Dynam®/B Backup for VM
- BrightStor® CA-Dynam®/TLMS Tape Management
- BrightStor® CA-Vtape™ Virtual Tape System
- BrightStor® Enterprise Backup
- BrightStor® High Availability
- BrightStor® Storage Resource Manager
- BrightStor® VM:Tape®
- CA ARCserve® Backup Agent for Novell Open Enterprise Server for Linux
- CA ARCserve® Backup Agent for Open Files on NetWare
- CA ARCserve® Backup Agent for Open Files on Windows
- CA ARCserve® Backup Client Agent for FreeBSD
- CA ARCserve® Backup Client Agent for Linux
- CA ARCserve® Backup Client Agent for Mainframe Linux
- CA ARCserve® Backup Client Agent for NetWare
- CA ARCserve® Backup Client Agent for UNIX
- CA ARCserve® Backup Client Agent for Windows
- CA ARCserve® Backup Enterprise Option for AS/400
- CA ARCserve® Backup Enterprise Option for Open VMS
- CA ARCserve® Backup for Windows
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for IBM Informix
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Lotus Domino
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Microsoft Data Protection Manager
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Microsoft Exchange
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Microsoft SharePoint

- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Microsoft SQL Server
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Oracle
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Sybase
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for VMware
- CA ARCserve® Backup for Windows Disaster Recovery Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Disk to Disk to Tape Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Module
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Option for IBM 3494
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Option for SAP R/3 for Oracle
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Option for StorageTek ACSLS
- CA ARCserve® Backup for Windows Image Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Microsoft Volume Shadow Copy Service
- CA ARCserve® Backup for Windows NDMP NAS Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Serverless Backup Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Storage Area Network (SAN) Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Tape Library Option
- CA XOsoft™ Assured Recovery™
- CA XOsoft™
- Common Services™
- eTrust® Antivirus
- eTrust® Firewall
- Unicenter® Network and Systems Management
- Unicenter® Software Delivery
- Unicenter® VM:Operator®

テクニカル サポートの連絡先

オンライン テクニカル サポートの詳細については、弊社テクニカル サポートの Web サイト(<http://www.ca.com/jp/support/>)を参照してください。

目次

第 1 章: エージェントの紹介	7
エージェントの利点.....	7
エージェントの機能.....	8
エージェントのアーキテクチャ.....	9
エージェントの概要.....	10
データベース インスタンス ID (DBIID).....	10
バックアップ計画.....	11
バックアップの一般的な考慮事項.....	11
自動繰り返しバックアップ.....	13
 第 2 章: エージェントのインストール	 15
インストールの前提条件.....	15
エージェントインストール.....	16
エージェントの環境設定.....	16
サーバへのアクセス権の設定.....	16
レジストリ エディタの設定.....	17
レジストリ パラメータの変更.....	19
エージェントのアンインストール.....	20
 第 3 章: エージェントの使用法	 21
エージェントを使用したバックアップの実行.....	21
バックアップの準備方法.....	21
バックアップ マネージャの概要.....	23
バックアップの実行.....	25
エージェントを使用したリストアの実行.....	33
リストアの準備.....	33
リストア マネージャの概要.....	33
リストアの実行.....	36
増分バックアップを使用したデータのリストア.....	44
差分バックアップを使用したデータのリストア.....	44
エージェントを使用した惨事復旧の実行.....	45
アーカイブされたトランザクション ログが有効な場合の惨事復旧の実行.....	45
循環トランザクション ログが有効な場合の惨事復旧の実行.....	47
トランザクション ログが無効な場合の惨事復旧の実行.....	48

付録 A: トラブルシューティング	49
デバッグ オプションの有効化.....	49
一般的なエラー メッセージ.....	50
索引	61

第 1 章：エージェントの紹介

CA ARCserve Backup は、アプリケーション、データベース、分散サーバ、およびファイル システム向けの包括的なストレージ ソリューションです。データベース、ビジネスクリティカルなアプリケーション、およびネットワーク クライアントにバックアップ機能およびリストア機能を提供します。

CA ARCserve Backup が提供するエージェントとして、CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino が用意されています。このエージェントは、Lotus Domino および CA ARCserve Backup と通信して、ローカル サーバまたはリモート サーバ上の Lotus Domino データベースをバックアップします。データ パケットを転送することで、CA ARCserve Backup と Lotus Domino サーバの間のすべての通信を処理します。

このガイドでは、CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino について説明します。エージェントは、Lotus Domino データベースおよびトランザクション ログをバックアップできる Lotus Domino Backup/Recovery アプリケーション プログラミング インターフェース (API) を使用します。このガイドでは、Windows プラットフォーム上での CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino の使用方法についても説明します。現在サポートされている Windows プラットフォームの一覧と、エージェントをインストールするためのハードウェアおよびソフトウェア要件については、Readme ファイルを参照してください。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[エージェントの利点](#) (7 ページ)

[エージェントの機能](#) (8 ページ)

[エージェントのアーキテクチャ](#) (9 ページ)

[エージェントの概要](#) (10 ページ)

[データベース インスタンス ID \(DBIID\)](#) (10 ページ)

[バックアップ計画](#) (11 ページ)

エージェントの利点

このエージェントには、以下の利点があります。

- バックアップを作成および管理する CA ARCserve Backup サーバの柔軟なバックアップ機能
- Lotus Domino データベース ファイルおよびトランザクション ログの完璧なデータ保護。

- Lotus Domino データベースの増分バックアップおよび差分バックアップが可能。
- 柔軟なスケジューリング機能。たとえば、指定日に実行するジョブをサブミットして繰り返し方法を選択したり、ローテーション スキーマ(事前設定の、フル バックアップ ジョブで構成される週単位でのバックアップ計画)を選択したりできます。

エージェントの機能

CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino では、以下の機能が提供されます。

フル バックアップ

CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino では、Lotus Domino サーバに所属するすべてのデータベース ファイルを、CA ARCserve Backup サーバを通じてテープまたはファイル システム デバイスにバックアップします。Lotus Domino のトランザクション ログ オプションが有効で、ログ形式がアーカイブになっている場合は、トランザクション ログ ファイルもバックアップされます。

増分バックアップおよび差分バックアップ

CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino では、増分または差分のバックアップ方式を選択でき、繰り返しジョブをスケジュールできます。トランザクション ログ形式がアーカイブになっている Lotus Domino サーバでは、増分および差分バックアップ ジョブを行うと、トランザクション ログ ファイルおよびデータベース ファイルは、新しいデータベース インスタンス ID (DBIID)で Lotus Domino サーバにバックアップされます。これ以外の場合は、増分および差分バックアップ ジョブでは変更されたすべてのデータベース ファイルがジョブに含まれます。

リストア

CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino で、データベース ファイルとトランザクション ログ ファイルがリストアされます。エージェントを使用することで、データベースやログ ファイルを、元の場所または別の場所のいずれにでもリストアできます。

回復

CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino は、リストアしたデータベースを回復します。回復処理では、トランザクション ログを使用してデータベースを現在の状態にロールフォワードするか(フル自動回復)、指定した時点の状態にロールフォワードします(Point-In-Time 自動回復)。

注：この回復処理は、トランザクション ログが有効な Lotus Domino サーバにのみ適用できます。

エージェント サーバ

CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino は、Windows NT、Windows 2000、または Windows 2003 のサービスとして機能するため、セットアップ プログラムまたは[コントロール パネル]の[サービス]ウィンドウから、自動的に開始するよう設定できます。これにより、サーバにログオンすることなく CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino を実行できます。

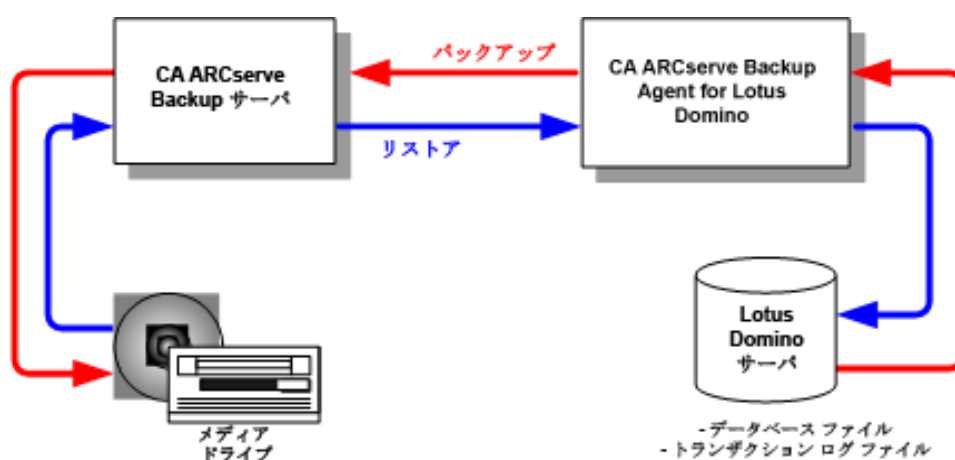
パーティション サーバ

パーティション サーバは Lotus Domino の機能の 1 つで、これによって Lotus Domino サーバの複数のインスタンスを 1 台のコンピュータで操作することができます。この機能により、すべてのパーティションが、同じ Lotus Domino プログラム ディレクトリおよび同じ実行可能ファイル セットを共有します。ただし、各パーティションには、固有のデータ ディレクトリと Notes.ini ファイルのコピーがあります。CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino では、パーティション サーバをサポートしているため、異なる Lotus Domino サーバにあるデータベースを同時に参照、バックアップ、およびリストアできます。

エージェントのアーキテクチャ

CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino には、CA ARCserve Backup でデータベースをバックアップおよびリストアできるサービスが備わっています。

以下の図は、CA ARCserve Backup と Lotus Domino の一般的な関係の概要を示しています。



エージェントの概要

CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino を CA ARCserve Backup と統合することで、システムがオンライン状態でもオフライン状態でも、Lotus Domino サーバ環境をバックアップおよびリストアできるようになります。オンライン バックアップは、データベースをバックアップするためにデータベースをレプリケートしたり、Lotus Domino サーバをオフラインにする必要がないため、処理が容易になります。オンライン バックアップを実行できるので、Lotus Domino サーバを停止する必要がありません。オンライン バックアップ処理は、連続的な可用性と年中無休の稼働性が求められるビジネスに最適です。

CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino では、Lotus Domino の Native Backup/Recovery API が使用されます。この API では、トランザクション ログの回復機能を使用します。トランザクション ログを有効に設定すると、データベースの変更をシステムが認識し、トランザクション ログに記録します。

CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino では常にデータベースのフル バックアップを必要とせず、増分バックアップおよび差分バックアップをサポートしているので、フル バックアップ ジョブよりも短時間でバックアップ処理を実行できます。システムまたはメディアに障害が発生しても、トランザクション ログとデータベースのフル バックアップの両方を使用して、データベースを回復できます。

データベース インスタンス ID (DBIID)

トランザクション ログを有効にすると、Lotus Domino ではデータベース インスタンス ID (DBIID)を各データベースに割り当てます。Lotus Domino がトランザクションをログに記録するときに DBIID も記録されます。回復処理時には、Lotus Domino がこの DBIID を使用してデータベースとトランザクションを一致させます。

データベースの一部のメンテナンス アクティビティでは、Lotus Domino サーバがデータベースに新しい DBIID を割り当てる場合があります。新しい DBIID が割り当てられると、ログに記録されるすべての新しいトランザクションにこの新しい DBIID が使用されます。ただし、古いトランザクションでは以前の DBIID のままであるため、新しい DBIID と一致しなくなります。よって、これらの古いトランザクションを使用してデータベースをリストアすることはできません。データの消失を回避するには、データベースが新しい DBIID に変更されたらすぐに、データベースのフル バックアップを行う必要があります。このバックアップを実行するときには、その時点までのすべてのデータベース トランザクションを取得し、データベースのリストアには(新しい DBIID を持つ)新しいトランザクションのみが必要な状態にする必要があります。

バックアップ計画

正しいバックアップ計画の目的は、バックアップ データとトランザクション ログ ファイルの組み合わせから確実にデータを回復させることによって、重要なデータの損失を防ぐことです。バックアップ計画を成功させる鍵は、定期的にバックアップを行うことです。複数ある Lotus Domino インストール環境およびデータベースには、それぞれに異なるバックアップ頻度が必要ですが、どのインストール環境およびデータベースのバックアップも決まった間隔で実行する必要があります。

重要: Lotus Domino サーバの使用を開始する前に、必ずバックアップおよび復旧の計画を立ててください。計画を立てずに Lotus Domino サーバの使用を開始すると、ディスク障害が発生した場合にデータを回復できなくなる可能性があります。

Lotus Domino での一般的なバックアップ計画は、週単位で Lotus Domino サーバのフル バックアップ(データベース ファイルとトランザクション ログ ファイル)を行うというものです。そのほかに、増分バックアップ(前回のバックアップ時から新しく DBIID を割り当てられた、アーカイブ準備の整ったログとデータベース ファイル)を日単位で行うとよいでしょう。実際のバックアップ頻度は、Lotus Domino サーバでの平均トランザクション数によって異なります。

トランザクション ログは、ある特定の時点以降にデータベースで発生したすべてのトランザクションをリストにしたものです。最新のトランザクションがバックアップ ファイルに含まれるようにするには、データベースよりも頻繁にトランザクション ログをバックアップする必要があります。たとえば、トランザクション ログのバックアップを 1 日に 1 回実行し、データベース全体のバックアップを週に 1 回実行します。こうすると、データベースをリストアする必要がある場合、前回バックアップされたトランザクションが常に 24 時間以内のものになります。トランザクション ログを頻繁にバックアップするほど、より最近のトランザクションを含むファイルができます。

バックアップの一般的な考慮事項

バックアップ計画を立てるときは、以下のことを考慮してください。

- 各データベースの重要性
- 各データベースの変動性
- 各データベースのサイズ
- 所定の日にバックアップの実行に割ける時間の長さ(バックアップの好機ともいう)
- 障害が発生した場合にデータベースの回復に必要な時間

データベースの重要性

データベースの重要性は、バックアップ計画の方向性を決定する際の非常に重要な要素となることがよくあります。重要なデータベースは以下のように処理してください。

- 頻繁にバックアップする。
- 最後にコミットされたトランザクションまでが回復されるよう、関連するトランザクション ログ ファイルをアーカイブする。
- 関連するトランザクション ログ ファイルを頻繁にアーカイブする。

注:トランザクション ログ ファイルを頻繁にアーカイブすると、データベースやトランザクション ログ ファイルに障害が発生し回復する必要がある場合に、失われる可能性のあるトランザクションの数を減らすことができます。

データベースの変動性

データベースの変動性によって、バックアップ計画が決定されることがよくあります。データが失われる可能性を小さくするには、変動するデータベースをより頻繁にバックアップする必要があります。また、トランザクション ログ ファイルのサイズや、回復時にログ ファイルの処理にかかる時間を短縮するため、データベースを毎日バックアップする必要があります。

データベース サイズ

データベースのサイズが、バックアップを実行できるタイミングと頻度に影響することがよくあります。たとえば、非常に大きなデータベースのバックアップには長い時間がかかります。このため、非常に大きなデータベースのバックアップを週に 1 回、週末にのみ行う必要がある場合もあります。データベースのサイズが大きくなり、週単位でバックアップしなければならなくなったら、関連するトランザクション ログ ファイルのアーカイブをデータベース自体よりも頻繁に実行する必要があります。また、重要なデータベースや変動するデータベースの場合は、トランザクション ログ ファイルを毎日バックアップする必要があります。

バックアップの好機

自分に都合のよいバックアップの好機に合わせ、データベースをバックアップできるタイミングが決定されることがよくあります。たとえば、営業時間中は頻繁に使用され、午後 6 時以降はほとんど使用されないデータベースの場合は、毎晩 12～13 時間分のバックアップ時間があります。一方、月曜から金曜までは 24 時間頻繁に使用されるが週末には使用されないデータベースの場合は、週末の 2 日間がバックアップ時間になります。いずれの場合も、自分に都合のよいバックアップの好機に合わせてバックアップ計画を調整してください。

回復時間の長さ

データベースの回復にかかる時間の短縮が目的の場合は、以下の操作を行ってください。

- データベースをバックアップする前に、インデックスを再編成するコマンドや未使用のインデックス領域を解放するコマンドを使用して、データベース サイズの縮小を試みます。
- データベースをより頻繁にバックアップします。データベースのバックアップ頻度を上げると、トランザクション ログ ファイルのサイズが縮小され、ロールフォワードにかかる時間が短縮されます。
- アーカイブしたトランザクション ログ ファイルをディスクに置いておきます。トランザクション ログ ファイルをディスク上に置いておくと、データベースのチェックポイントのみを回復するだけでよく、ログ ファイルを回復する必要はありません。
- 代替システムの準備を完了（またはほぼ完了）しておき、オンライン システムからシステムを引き継げるようにします。たとえば、最新のデータベースとトランザクション ログ ファイルを代替システムへ定期的に回復すると、オンライン システムに障害が発生した場合に代替システムですばやく置き換えることができます。

自動繰り返しバックアップ

一定の間隔でバックアップ ジョブを繰り返して実行するように設定できます。たとえば、毎週日曜日の深夜にバックアップ ジョブを実行するには、繰り返しの間隔を 7 日に設定し、ジョブをサブミットするときにそのジョブが日曜の深夜に実行されるようにスケジュールします。バックアップが完了すると、CA ARCserve Backup は、ジョブが毎週日曜日の深夜に実行されるように自動的に再スケジュールします。繰り返し間隔は、バックアップ マネージャの[スケジュール]タブに表示される[間隔]タブで設定できます。間隔を設定するときは、[間隔]タブの[バックアップ方式]を[フル]に設定します。

第 2 章：エージェントのインストール

この章では、CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino のインストールと環境設定について説明します。この章の内容は、インストール作業を行うユーザが、指定されたオペレーティング システムの全般的な特徴と要件に習熟していることを前提としています。また、インストール作業を行うためには、インストール先となるオペレーティング システムの管理者権限(または管理者に相当する権限)が必要です。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[インストールの前提条件](#) (15 ページ)

[エージェントインストール](#) (16 ページ)

[エージェントの環境設定](#) (16 ページ)

[エージェントのアンインストール](#) (20 ページ)

インストールの前提条件

CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino をインストールする前に、以下のことを確認してください。

- CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino をインストールするシステムが、インストールの動作要件を満たしていること。動作要件については **Readme** ファイルを参照してください。
- CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino のインストール用に 30 MB のハード ディスク容量があること。
- エージェントをインストールするコンピュータ上で、ソフトウェアをインストールするために必要となる管理者権限(または管理者に相当する権限)を有していること。
- トランザクション ログのバックアップに対応するため、トランザクション ログのオプションが有効になっていて、トランザクション ログ形式がアーカイブである。

トランザクション ログを有効にすると、Lotus Domino ではほとんどのデータベースとテンプレートに対するログが自動的にオンになります。Lotus Domino サーバの管理者は、データベースのプロパティから各データベースのログのオン/オフを切り替えることができます。また、管理者はこれらのファイルの作成場所とトランザクション ログのサイズも指定できます。

エージェントインストール

CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino は、CA ARCserve Backup のシステムコンポーネント、エージェント、およびオプションの標準的なインストール手順に従ってインストールします。この手順の詳細については、「実装ガイド」を参照してください。

インストール手順が完了したら、指示に従ってコンピュータを再起動します。

重要: 古いリリースの CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino からアップグレードする場合は、アップグレードの直後にフル バックアップをスケジュールする必要があります。

エージェントの環境設定

CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino の設定を開始する前に、Lotus Domino サーバの notes.ini ファイルが格納されている場所のパスを確認しておく必要があります。

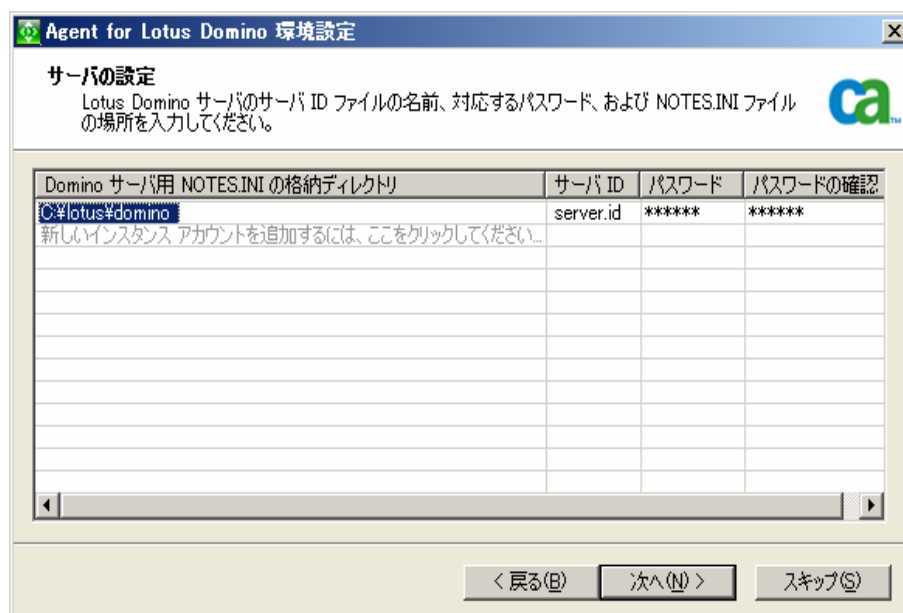
サーバへのアクセス権の設定

CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino は、Lotus Application Programmer Interface (API) を通じて Lotus Domino サーバに接続する必要があります。したがって、セキュリティ上の理由から、ユーザがエージェントのコンポーネントを実行するには、内部から Lotus Domino サーバに接続する許可とアクセス権を持っていることが重要です。

[Agent for Lotus Domino 環境設定] ダイアログ ボックスで Lotus Domino サーバへのアクセス権を設定します。これにより、許可を受けたユーザがバックアップおよびリストア ジョブを実行できるようになります。

サーバへのアクセス権の設定方法

1. [スタート]メニューから、[プログラム]-[CA]-[ARCserve Backup Agents]-[Lotus Domino Agent 環境設定]を選択すると、以下のような[Agent for Lotus Domino 環境設定]ダイアログ ボックスが表示されます。



2. このダイアログ ボックスで、notes.ini ファイルの場所、サーバ ID ファイル名および、サーバ ID ファイルにアクセスするための対応するパスワードを入力します。

注：一般的に、notes.ini ファイルの場所は、Lotus Domino のパーティション サーバでは Lotus Domino のデータ パス、Lotus Domino のシングル サーバでは Lotus Domino のホーム ディレクトリです。

3. [完了]をクリックしてレジストリ エディタに設定情報を送信し、設定を完了します。

レジストリ エディタの設定

レジストリ エディタを使用して、データベースのバックアップ用に CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino を設定することができます。

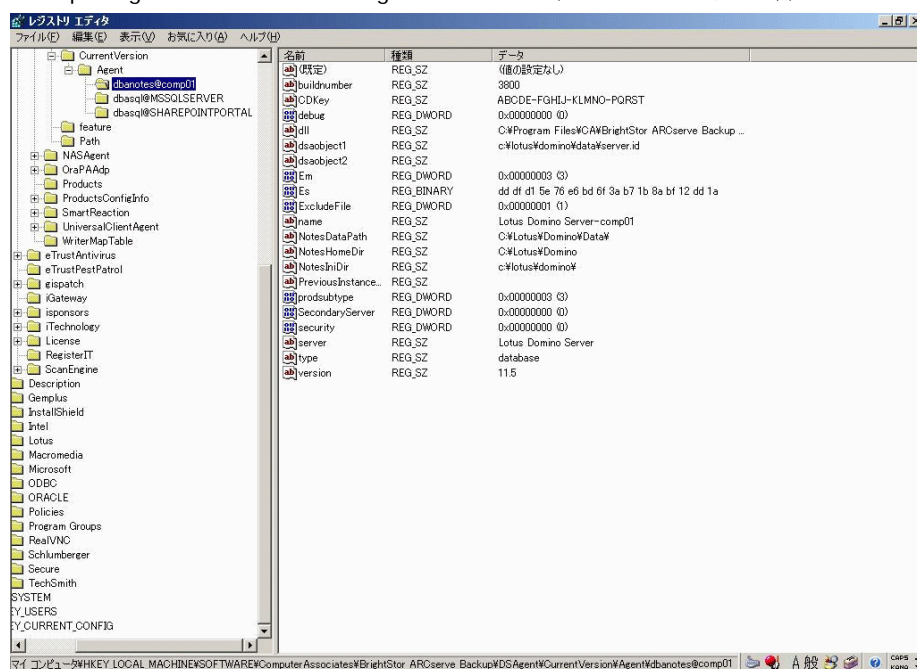
注：オプションについては、弊社のテクニカル サポートから特に指示がないかぎり変更しないでください。

Windows NT および Windows 2000/2003 で利用可能な Windows REGEDT32 ユーティリティを使用すると、Windows レジストリで CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino の設定値の一部をカスタマイズおよび変更できます。

エージェントの設定値をレジストリ エディタでカスタマイズする方法

1. レジストリ エディタを起動します。
2. レジストリ エディタのツリーで、以下のノードまでディレクトリを展開します。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ComputerAssociates\CA ARCserve Backup\DSAgent\CurrentVersion\agent\dbanotes@ (Lotus Domino サーバ名)



3. ウィンドウの右側に表示される一覧で、設定するオプションをダブルクリックすると、設定を変更できます。
4. エージェントのオプションの設定が終了したら、レジストリ エディタを終了し、CA ARCserve Backup Agent RPC Server を再起動します。

レジストリ パラメータの変更

変更可能なレジストリのパラメータは以下のとおりです。

dll

このパラメータは、CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino 実行可能ファイル(dbanotes.dll)の場所を指定します。

NotesIniDir

このパラメータは、notes.ini ファイルの場所を指定します。

NotesHomeDir

このパラメータは、Lotus Domino のホーム ディレクトリ(Lotus¥Domino)の場所を指定します。

NotesDataPath

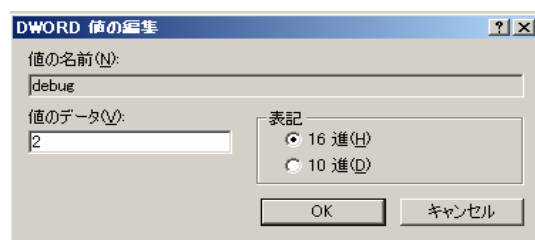
このパラメータは、Lotus Domino のデータ パス(Lotus¥Domino¥data)の場所を指定します。

dsaobject1

このパラメータは、Lotus Domino ID ファイルの場所を指定します。たとえば、server.id などです。

debug

このパラメータは、対応する Lotus Domino サーバに対して、生成される追跡ファイル(dbanotes@servername.trc)のデバッグ レベルまたは範囲を指定します。追跡ファイルには CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino の実行中に発生したすべての問題、警告およびエラーが含まれており、弊社のテクニカル サポート担当者がトラブルシューティングの作業中にこの追跡ファイルを利用します。パラメータをダブルクリックして[DWORD 値の編集]ダイアログ ボックスを開き、次のように適切なデバッグ レベルを入力します。追跡ファイルを生成しない場合は 0、一般的な追跡ファイルを生成するには 1、詳細な追跡ファイルを生成するには 2 を指定します。以下に例を示します。



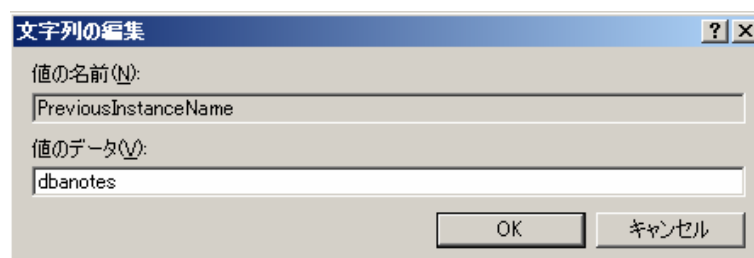
PreviousInstanceName

このパラメータは、現在のホスト サーバにはすでに存在していない Lotus Domino インスタンスのリストアに使用します。この場合、存在しない Lotus Domino インスタンスのリストアと回復には、現在の Lotus Domino インスタンスの設定が使用されます。

この事例は、古いリリースのエージェントを現在のリリースにアップグレードして、Lotus Domino サーバもパーティション サーバにアップグレードした場合、またはすでに現在のリリースのエージェントが存在し、前回バックアップを行ってから Lotus Domino サーバの名前を変更した場合に発生します。

- リストア対象のデータが古いリリースのエージェントを使用してバックアップされていた場合は、古いインスタンス名が常に `dbanotes` になります。
- リストア対象のデータが現在のリリースのエージェントを使用してバックアップされていた場合、インスタンス名が `dbanotes@servername` になります。（サーバ名は実際の Lotus Domino サーバ名になります）。

パラメータをダブルクリックして[文字列の編集]ダイアログ ボックスを開き、以下の例で示すように古いインスタンス名を入力します。



重要: バックアップを実行した後は、Lotus Domino サーバの名前を変更しないでください。リストア ジョブでは常に、バックアップされたものと同じ Lotus Domino サーバの設定を使用します。Lotus Domino サーバ名を変更した場合、リストアを実行するには、`PreviousInstanceName` レジストリ キーを手動で設定する必要があります。

重要: 古いリリースのエージェントからアップグレードする場合は、アップグレードの直後にフル バックアップをスケジュールする必要があります。

エージェントのアンインストール

コンピュータからエージェントを削除するには、以下の手順に従います。

1. Windows の[コントロール パネル]を開きます。
2. [アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックします。
3. CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino を選択します。
4. [削除]ボタンをクリックします。[アプリケーションの追加と削除]ダイアログ ボックスが開きます。
5. このエージェントを削除するかどうかの確認メッセージが表示されたら、[はい]をクリックします。

第 3 章：エージェントの使用法

本章では、CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino でバックアップおよびリストアを実行する方法を説明します。バックアップおよびリストアの機能の概要については、「管理者ガイド」を参照してください。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[エージェントを使用したバックアップの実行](#) (21 ページ)

[エージェントを使用したリストアの実行](#) (33 ページ)

[エージェントを使用した惨事復旧の実行](#) (45 ページ)

エージェントを使用したバックアップの実行

CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino とバックアップ マネージャを使用すると、任意の Lotus Domino サーバをソースとして選択し、CA ARCserve Backup サーバに接続されているテープ デバイスをデスティネーションに選択した状態で、バックアップ ジョブを選択およびサブMITすることができます。Lotus Domino サーバ全体または Lotus Domino サーバ内の個々のオブジェクト(データベース ファイルおよびトランザクション ログ ファイル)をバックアップすることが可能です。

バックアップの準備方法

バックアップ ジョブをサブMITする前に、以下の前提条件が実行されていることを確認する必要があります。

- データベースのデータの整合性を確認します。データの整合性を確認するには、Lotus Domino クライアントでデータベースを開き、矛盾やエラーの内容を調査します。
- CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino のログオン情報を指定します。
- CA ARCserve Backup サーバのホーム ディレクトリに環境設定ファイルを作成します。
- DWORD 値を作成します。

ログオン情報の指定

NAS デバイスまたはネットワーク共有デバイスに Lotus Domino データをバックアップする前に、以下の操作を行ってください。

CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino のログオン情報を指定する方法

1. NAS デバイスまたはネットワーク共有デバイスのログオン認証情報が、CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino がインストールされたホスト サーバのログオン認証情報と同じであることを確認します。
2. [スタート]メニューから、[設定]-[コントロール パネル]-[管理ツール]-[サービス]を選択し、表示されるリストから[CA ARCserve Backup Agent RPC Server]をダブルクリックします。[CA ARCserve Backup Agent Server のプロパティ]ダイアログ ボックスが開きます。
3. [ログオン]タブをクリックして、[アカウント]オプションを選択すると、対応するログオン認証情報が表示されます。
4. NAS デバイスまたはネットワーク共有デバイスへのログオンに設定したものと同一ログオン情報を入力します。

環境設定ファイルの作成

Lotus Domino データをバックアップする前に、以下の手順に従います。

環境設定ファイルの作成方法

CA ARCserve Backup サーバの場合は、CA ARCserve Backup サーバのホーム ディレクトリに環境設定ファイルを作成します。設定ファイルの名前は NotesNetShare.cfg です。以下に、NotesNetShare.cfg ファイル フォーマットの例を示します。

```
\\server213\d$ \\server100\lotus
```

この例では、server213 は CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino がインストールされているホスト サーバ(マシン)、d\$ は NAS 共有の lotus にマップされたドライブ、server100 は NAS サーバ名、lotus は NAS 共有です。以下に、NotesNetShare.cfg ファイル フォーマットの別の例を示します。

```
¥¥123.456.789.1¥f$ ¥¥123.456.789.2¥d$
```

この例では、123.456.789.1 は CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino がインストールされているホスト サーバ(マシン)、f\$ はネットワーク共有デバイスにマップされたドライブ、¥¥123.456.789.2¥d\$ は Lotus Domino データ ディレクトリがある場所です。

Lotus Domino の起動

Lotus Domino の 6.x および 7.x バージョンは、仮想セッションに対応していません。そのため、CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino を使用してデータをバックアップする前に、以下のいずれかのモードを使用して Lotus Domino を起動する必要があります。

- Lotus Domino をサービス モードで起動します。
- (仮想セッションの代わりに)コンソールを使用してログインし、Lotus Domino をアプリケーション モードで起動します。

重要: 仮想セッションを使用してログインし、Lotus Domino をアプリケーションモードで起動する場合、CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino を使用して参照、バックアップ、またはリストアする際に Lotus Domino に不具合が発生する可能性があります。

バックアップ マネージャの概要

バックアップ マネージャには CA ARCserve Backup ジョブの詳細な情報が入っているため、バックアップするオブジェクトやバックアップ先の場所を簡単に選択することができます。また、バックアップ マネージャのフィルタ、オプション、およびスケジューリングを使用して、バックアップ ジョブをカスタマイズすることもできます。バックアップ マネージャの詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

バックアップ マネージャのタブ

それぞれのバックアップ ジョブには、ソース、デスティネーション(メディア)およびスケジュールまたは方式を指定する必要があります。バックアップ マネージャ画面には、バックアップ ジョブの詳細をカスタマイズする以下の 3 つのタブが表示されます。

[ソース]タブ

[Agent for Lotus Domino 環境設定]ダイアログ ボックスで正しく設定されたすべての Lotus Domino サーバが表示されます。特定の Lotus Domino サーバをブラウザすると、その Lotus Domino サーバにあるオブジェクトのリストが表示されます。Lotus Domino サーバのディレクトリは、CA ARCserve Backup でサポートされている他のホストやクライアントと同じ方法でブラウザできます。

[ステージング]タブ

ステージング バックアップ操作の有効無効を切り替え、ステージング ポリシーと環境設定パラメータの設定に使用します。

[デスティネーション]タブ

すべてのデバイスのグループが、CA ARCserve Backup のデバイス環境設定 (dvconfig.exe)ファイルで定義したとおりに表示されます。これを使用して選択したデバイスに Lotus Domino サーバのデータをバックアップできます。

[スケジュール]タブ

バックアップ ジョブのスケジュールおよび方式を選択するのに使用されます。このタブでは、事前に定義したバックアップ計画を選択したり、自分の環境のニーズに合わせてバックアップ計画をカスタマイズすることができます。

Lotus Domino のバックアップ方式

CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino のバックアップ方式は、バックアップ マネージャの[スケジュール]タブに表示されます。

フル(アーカイブ ビットを維持)

すべての選択されている項目がバックアップされます(フル バックアップ)。Lotus Domino サーバ全体(データベース ファイルとトランザクション ログ ファイル)、特定のデータベース ファイル、またはトランザクション ログ ファイルを選択できます。

フル - アーカイブ ビットをクリア

すべての選択されている項目がバックアップされます(フル バックアップ)。Lotus Domino サーバ全体(データベース ファイルとトランザクション ログ ファイル)、特定のデータベース ファイル、またはトランザクション ログ ファイルを選択できます。

注: CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino では、[フル(アーカイブ ビットを維持)]と[フル(アーカイブ ビットをクリア)]のいずれの方式でも、同じフル バックアップが生成されます。アーカイブ ビットを維持およびアーカイブ ビットをクリアの機能は、エージェントには適用されません。

増分

アーカイブスタイルのトランザクション ログ オプションが有効になっている Lotus Domino サーバでは、増分バックアップを行うと、トランザクション ログ ファイルと、前回のフルまたは増分バックアップ以降に新しい DBIID が割り当てられたファイルのみがバックアップに含まれます。トランザクション ログがない、またはアーカイブスタイルのトランザクション ログ オプションが無効になっている Lotus Domino サーバでは、増分バックアップを行うと、前回のフルまたは増分バックアップ以降に変更されたファイルのみがバックアップに含まれます。

差分

アーカイブスタイルのトランザクション ログ オプションが有効になっている Lotus Domino サーバでは、差分バックアップを行うと、トランザクション ログ ファイルと、前回のフル バックアップ以降に新しい DBIID が割り当てられたファイルのみがバックアップに含まれます。トランザクション ログがない、またはアーカイブスタイルのトランザクション ログ オプションが無効になっているサーバでは、差分バックアップを行うと、前回のフル バックアップ以降に変更されたファイルのみがバックアップに含まれます。

注：以前にアーカイブされたログ ファイルが存在しないために、ジョブ中にバックアップされたトランザクション ログ ファイルが 1 つも存在しないこともあります。またデフォルトでは、アクティブなトランザクション ログ ファイルも、ファイルの内容が変動するためバックアップされません。アクティブなログ ファイルのバックアップの詳細については、「アクティブなトランザクション ログ ファイルのバックアップ準備」を参照してください。

バックアップの実行

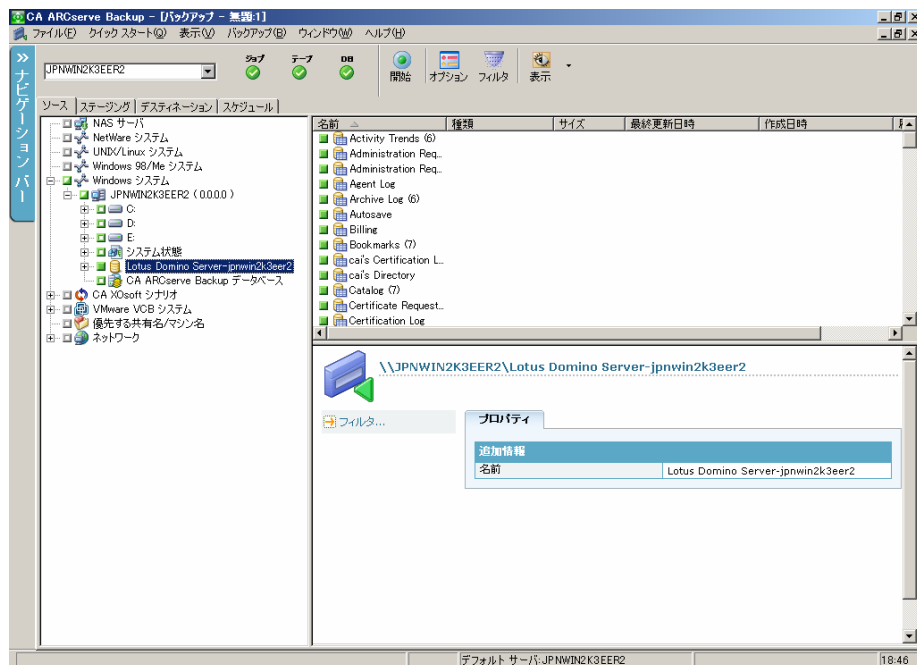
バックアップ ジョブには、データの抽出元であるデータ ソース(ソース)と、抽出したデータの保管先となるストレージ デバイス(デスティネーション)が必要です。Lotus Domino からデータをバックアップするには、ソースとして Lotus Domino サーバ オブジェクト、デスティネーションとして CA ARCserve Backup デバイスを選択した状態で、バックアップ マネージャを使用してバックアップ ジョブをサブミットする必要があります。

注：Agent for Lotus Domino は、エージェント サーバでのデータ暗号化およびデータ圧縮をサポートしていません。

データをバックアップする方法

1. CA ARCserve Backup ホーム画面で、バックアップ マネージャのアイコンをクリックします。バックアップ マネージャのメイン ウィンドウが開きます。

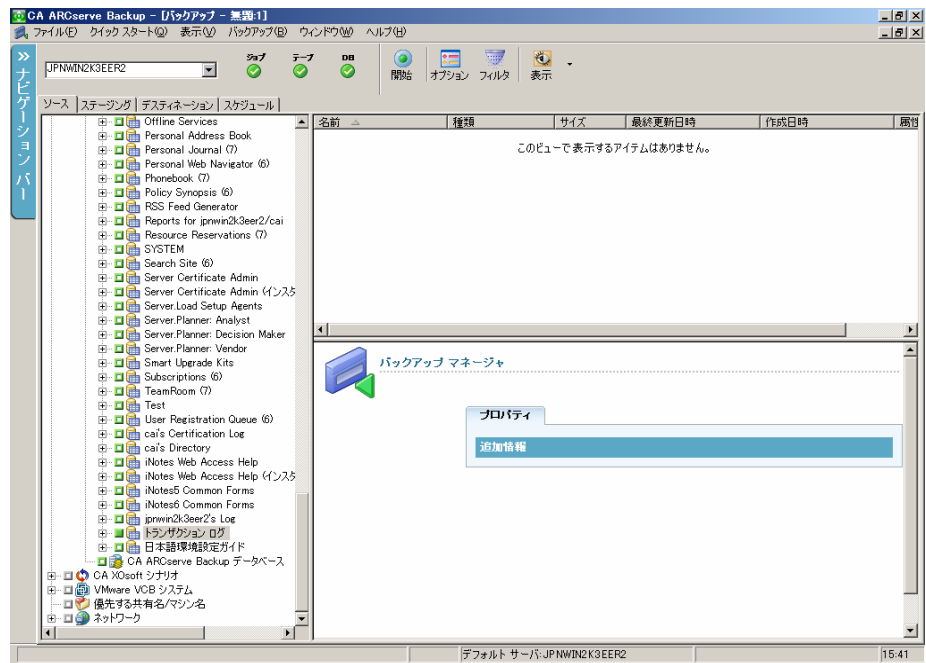
2. [ソース]タブで、バックアップ対象の Lotus Domino サーバを含むホスト サーバを選択して展開します。該当するツリーが展開し、バックアップ可能なサーバが以下のように表示されます。



注: Lotus Domino サーバ名の長さが 30 文字より長い場合、CA ARCserve Backup は 30 文字の制限を超える余分な部分を自動的に切り捨て、文字列の最後の 2 文字(29 および 30 文字目)を 01 で置き換えます。同じ名前の Lotus Domino サーバが別に存在する場合、CA ARCserve Backup は再度名前を 30 文字に切り捨て、文字列の最後の 2 文字を 02 で置き換えます。たとえば、以下のようになります。

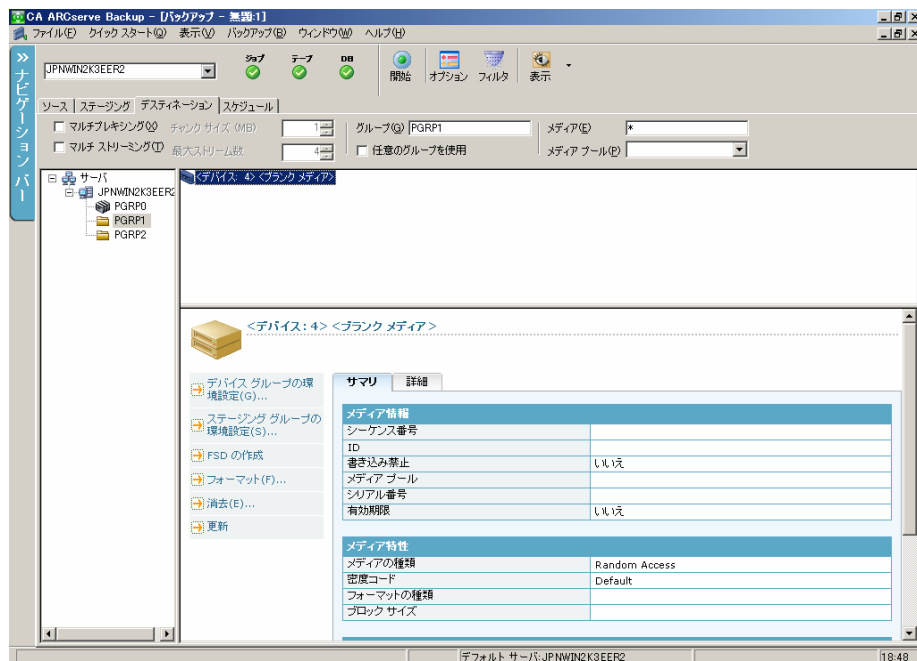
- Lotus Domino サーバが以下のような名前だとします。
「User1223334444555556666667777777」(32 文字)
- CA ARCserve Backup は、名前を 30 文字に切り捨て、残り最後の 2 文字を以下のように変更します。
「User12233344445555566666677701」(30 文字)
- 前と同じ名前を使用して Lotus Domino サーバを作成すると、CA ARCserve Backup は以下のように名前を変更します。
「User12233344445555566666677702」(30 文字)

- バックアップ可能なサーバのリストで、バックアップ対象のデータベースを含む適切な Lotus Domino サーバをクリックします。該当するツリーが展開し、選択した Lotus Domino サーバ上にあるバックアップ可能なデータベースのリストが表示されます。また、Lotus Domino のトランザクション ログ オプションが有効で、アーカイブ スタイルのトランザクション ログ オプションが選択されている場合、展開された Lotus Domino ツリーにトランザクション ログのアイコンも(アルファベット順で)表示されます。以下に例を示します。



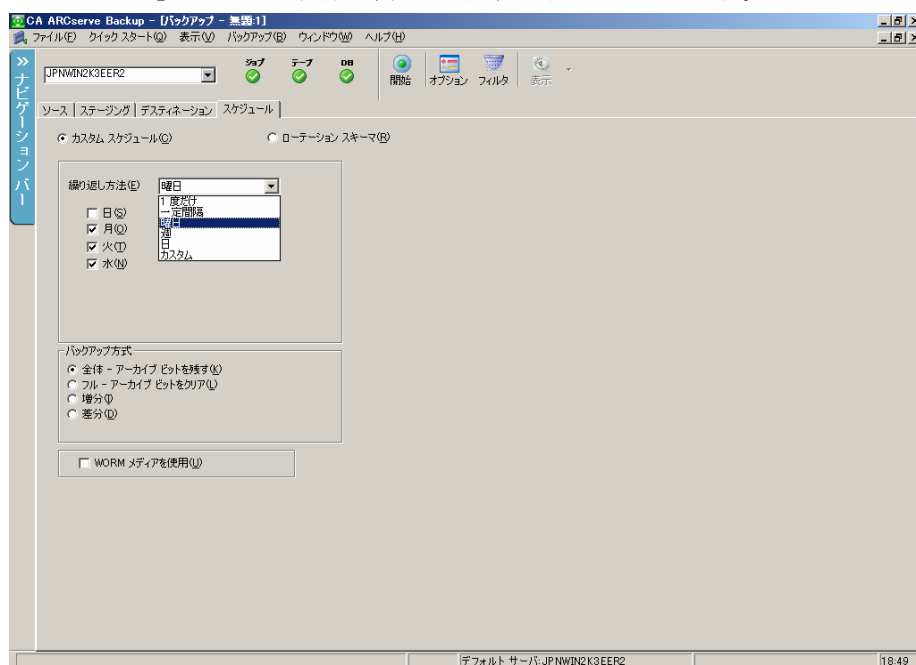
- バックアップ可能なデータベースのリストから、適切な Lotus Domino データベースを選択します。選択するには、対応するボックスを、緑一色(フル バックアップ)になるまでクリックします。Lotus Domino サーバ全体を選択することも、サーバ内の個々のオブジェクト(データベースやトランザクション ログ)を選択することもできます。

5. [デスティネーション]タブをクリックしてデスティネーションのオプションを表示し、バックアップ データの送り先となる適切なバックアップ グループおよび対応するメディア情報を選択します。以下に例を示します。



6. [スケジュール]タブをクリックして、スケジュールおよびバックアップ方式のオプションを表示します。

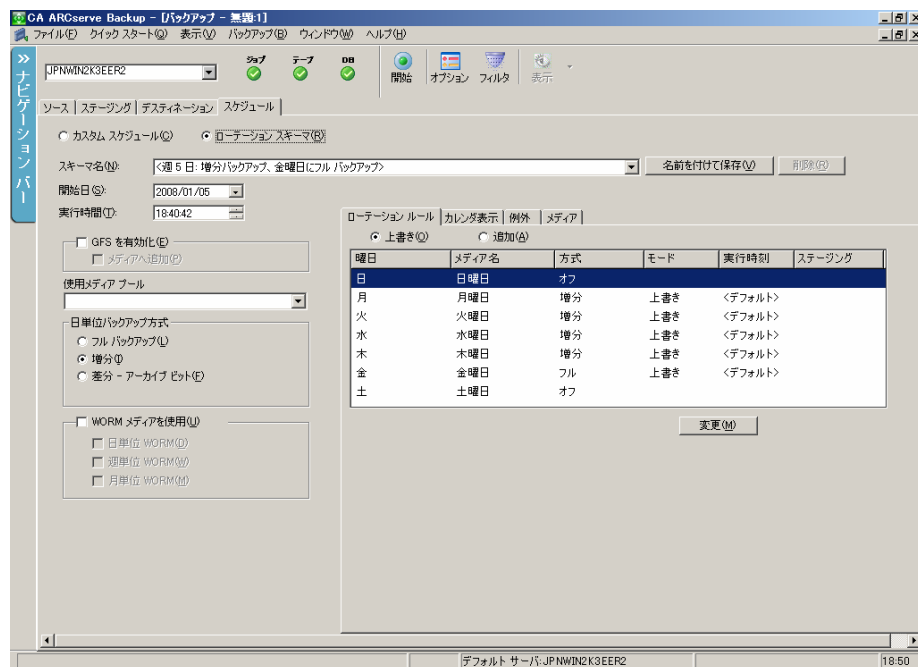
7. スケジュール オプションでは、[カスタム スケジュール]と[ローテーション スキーマ]のいずれかを選択します。
 - a. [カスタム スケジュール]オプションでは、バックアップ ジョブを 1 回だけ実行するか、指定どおりに繰り返し実行するかを指定できます。[カスタム スケジュール]を選択した場合は、以下のウィンドウが表示されます。



- [繰り返し方法]ドロップ ダウン リストから、[1 度だけ]または適切な繰り返し方法([一定間隔]、[曜日]、[週]、[日]または[カスタム])を選択します。
- 適切なバックアップ方式(フル、増分または差分)を選択します。アーカイブスタイルのトランザクション ログ オプションが有効の場合、増分バックアップを行うと、トランザクション ログ ファイルと、前回のフルまたは増分バックアップ以降に新しい DBIID が割り当てられたファイルのみがバックアップされます。アーカイブスタイルのトランザクション ログ オプションが無効の場合、増分バックアップを行うと、前回のフル バックアップまたは増分バックアップ以降に変更されたデータベース ファイルのみがバックアップされます。

これらのオプションの詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

- b. [ローテーション スキーマ]オプションを使用すると、さまざまなバックアップ方式を組み合わせ、5 ～ 7 日間のカスタマイズされたサイクルで、バックアップ ジョブを実行することができます。[ローテーション スキーマ]オプションを選択すると、以下のウィンドウが表示されます。



- 以下のように、適切なスキーマ オプションを選択します。

[スキーマ名] - サブミットするローテーション ジョブの種類。

[開始日] - バックアップを開始する日付。

[実行時間] - バックアップを開始する時刻。

[失敗ターゲットの再試行] - 失敗したターゲット ドライブのバックアップを再試行するためにバックアップ ジョブを繰り返し実行する時刻。

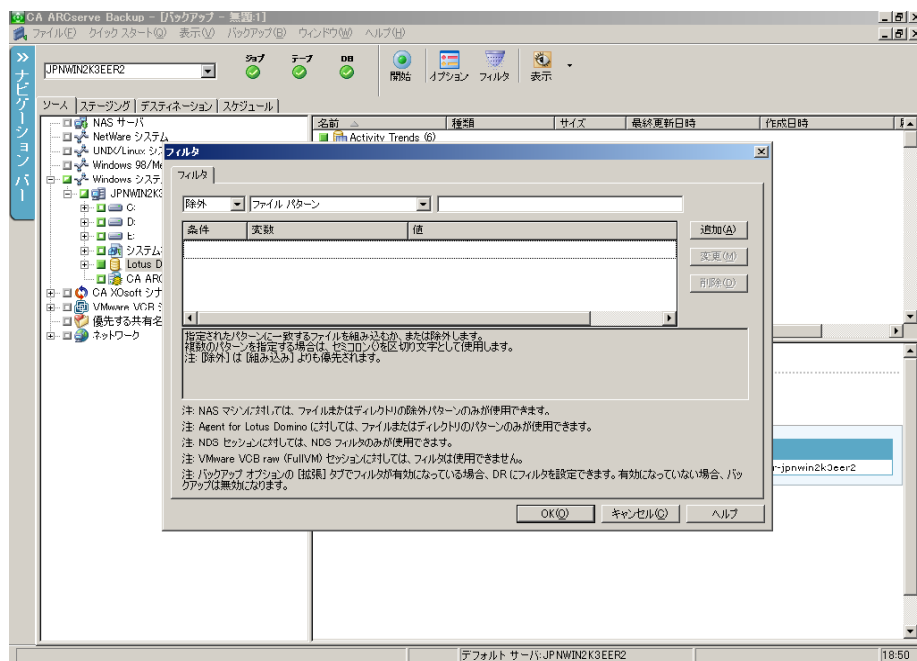
[GFS を有効化] - 定義済みのGFS (Grandfather-Father-Son)ローテーション スキーマから選択できます。

[メディア プール名プレフィックス] - メディア プールを日単位、週単位、および月単位でバックアップする際の識別子。

- 適切なバックアップ方式(フル、増分または差分)を選択します。

これらのオプションの詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

8. (オプション)バックアップ ジョブをフィルタリングします。そのためには、[ソース]タブを選択し、適切な Lotus Domino サーバを右クリックして[フィルタ]を選択し、[フィルタ]ダイアログ ボックスを開きます。フィルタ オプションを選択して、[OK]をクリックします。以下に例を示します。

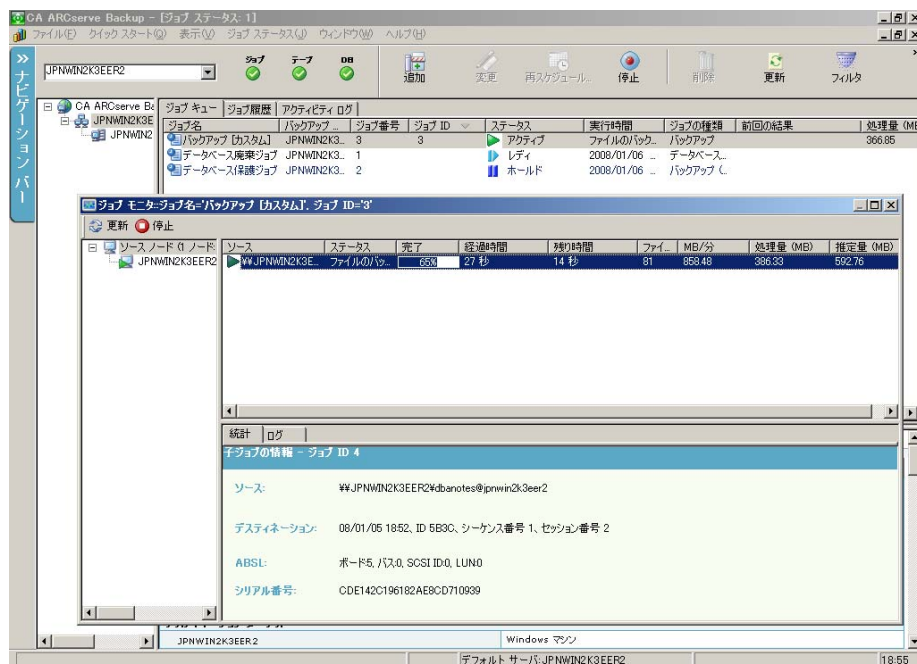


注：CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino でサポートしているのは、ファイル パターン フィルタとディレクトリ パターン フィルタのみです。これらのフィルタを使用すると、特定のファイル名やファイル パターン、または特定のディレクトリ名やディレクトリ パターンに基づいて、ファイルまたはディレクトリをジョブに含めるか除外するかを指定することができます（ファイル データ フィルタは、このエージェントでは使用できません）。フィルタ オプションの詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

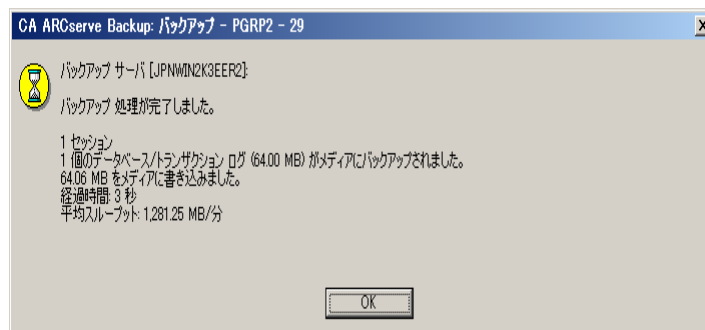
9. すべてのバックアップ ジョブ属性が完成したら、[開始]をクリックしてバックアップ ジョブを開始します。[セキュリティおよびエージェント情報]ダイアログ ボックスが表示されます。
10. 選択したサーバ ホストのセキュリティ情報（ユーザ名とパスワード）を入力します。セキュリティ オプションの詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。

重要：[セキュリティおよびエージェント情報]ダイアログ ボックスには、リモートの Windows NT、および Windows2000/2003 サーバの情報のみを入力できます。作業を続行するには、少なくともバックアップするための権限が必要です。ローカル マシン上の Lotus Domino データベースをバックアップする場合は、このダイアログ ボックスに情報を入力する必要はありません。

11. [OK]をクリックします。[ジョブのサブミット]ダイアログ ボックスが表示され、ジョブの種類、データベース ファイルのソース ディレクトリ、およびデスティネーションの情報に関するサマリが表示されます。必要に応じて、[ジョブの詳細]フィールドにジョブの説明を入力します。
12. [ジョブ実行時刻]で[即実行] (すぐにバックアップを実行) または[実行日時指定] (バックアップの日時を定義) を選択し、[OK]をクリックしてバックアップ ジョブをサブミットします。[ステータス]画面が開き、[ジョブ キュー]と[ジョブ詳細]が表示されます。サーバ名を右クリックして[プロパティ]を選択すると、より詳細なジョブ モニタ情報も表示されます。[ジョブ モニタ]ウィンドウが開き、バックアップ プロセスの詳細とステータスが表示されます。以下に例を示します。



13. バックアップ ジョブが完了すると、ステータス ウィンドウが開き、バックアップ ジョブの最終ステータス(成功または失敗)が表示されます。[OK]ボタンをクリックしてステータス ウィンドウを閉じます。



エージェントを使用したリストアの実行

CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino とリストア マネージャを使用して、リストア ジョブの設定およびサブミットを行うことができます。Lotus Domino データベース全体をリストアすることも、データベース内の個々のオブジェクト(データベース ファイルやトランザクション ログ ファイル)をリストアすることもできます。

リストアの準備

メディア障害から復旧するには、CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino を使用して、まず、アーカイブされたログ ファイル(アーカイブされたログ ファイルが存在しない場合)をリストアし、その後データベースをリストアします。前回のフル バックアップを実行した時点から障害発生時点までに発生したトランザクション ログすべてをリストアします。

トランザクション ログ ファイルがすでに無効(削除されている、または破損している)になっている状態で[回復の実行]オプションを選択する場合は、データベースをリストアする前に、データベースが前回バックアップされた時点から今回のリストア ジョブまでの間にアーカイブされたトランザクション ログ ファイルをリストアする必要があります。

注: サーバに存在しないトランザクション ログのみをリストアします。アーカイブされたログがログ ディレクトリ内に存在する場合は、テープからリストアする必要はありません。トランザクション ログのリストアは、アーカイブスタイルのトランザクション ログ オプションが有効になっている Lotus Domino サーバに対してのみ適用されます。

共有メールをリストアする必要がある場合は、共有メールをリストアする前に、以下のよう
に Lotus Domino サーバをオフラインにする必要があります。

1. Lotus Domino サーバを起動します。
2. 共有メールをオフラインにします。
3. Lotus Domino サーバをシャット ダウンします。

注: 必ず、Lotus Domino サーバをシャット ダウンしてから、データベース ファイルをリストアしてください。

リストア マネージャの概要

リストア マネージャには CA ARCserve Backup ジョブの詳細な情報が入っているため、リストアするオブジェクトやリストア先の場所を簡単に選択することができます。また、リストア マネージャのオプションおよびスケジューリングを使用して、リストア ジョブをカスタマイズすることもできます。リストア マネージャの詳細については、「管理者ガイド」を参照してください。

リストア マネージャのタブ

各リストア ジョブには、ソース(メディアとセッション)およびデスティネーションを指定する必要があります。リストア マネージャ画面には、リストア ジョブの詳細をカスタマイズする以下の 3 つのタブが表示されます。

[ソース]タブ

ツリー単位またはセッション単位のいずれかのリストアによって以前にバックアップされた Lotus Domino オブジェクトのリストが表示されます。

[デスティネーション]タブ

バックアップされたオブジェクトをリストアできる場所のリストが表示されます。

[スケジュール]タブ

[スケジュール]タブを使用して、リストア処理のスケジュールと方式を選択します。

Lotus Domino のリストア方式

CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino のリストア方式は、リストア マネージャの[ソース]タブにあるドロップダウン リストに表示されます。Lotus Domino サーバがリストア用に選択されている場合、使用できる方式は以下のとおりです。

[ツリー単位]方式

[ツリー単位]方式では、リストア ジョブのオブジェクトを、データのバックアップ元のソース マシンに基づいて選択できます。この方式を選択した場合、サーバの内容全体をまとめてリストアすることができないため、代わりに従属するすべてのオブジェクトを個々に選択する必要があります。この方法は、必要なデータが格納されているメディアがどれなのか不明だが、リストア対象のデータおよびその格納先マシンがどれなのか検討がつく場合に使用します。リストア マネージャではこの方式がデフォルトになっています。

[セッション単位]方式

この方式では、バックアップに使用したすべてのメディアとそこに格納されているファイルのリストが表示されます。セッション単位方式では、バックアップ セッションごとに、リストア ジョブのオブジェクトを選択することができます。

[照会単位]方式

この方式はエージェントによりサポートされていません。

[イメージ/サーバレス リストア]方式

この方式はエージェントによりサポートされていません。

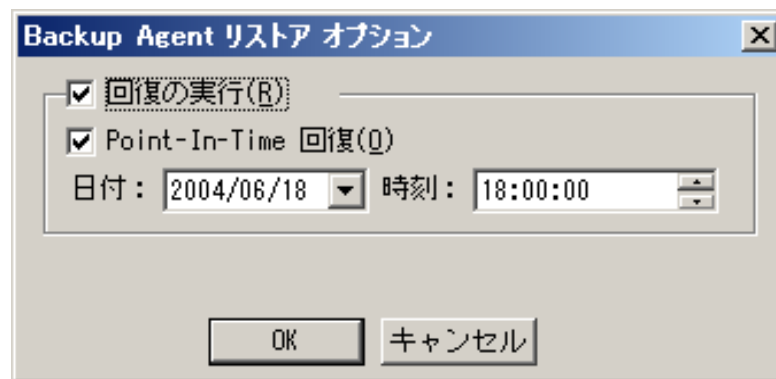
[メディア単位]方式

この方式はエージェントによりサポートされていません。

注: いずれの方式でも、特に指定のない限り、元のデータベースにデータをリストアするようにデフォルトで設定されています。

Lotus Domino のリストア オプション

CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino のリストア オプションは、[エージェント リストア オプション]ダイアログ ボックスに表示されます。このダイアログ ボックスを開くには、適切な Lotus Domino サーバを選択し、右クリックして[エージェント オプション]を選択します。



使用可能なオプションは、以下のとおりです。

[回復の実行]

データベースを現在の日時(最新)まで回復します。

[Point-In-Time 回復]

指定した時点(日付と時刻)までデータベースを回復します。回復は、データベースがバックアップされた後に発生したデータベースの変更を適用する処理です。回復を行うと、データベースがより最近の状態に戻ります。[Point-In-Time 回復]を選択すると、データベースの状態を特定の時点まで戻ることができるため、より柔軟にデータベースを回復できます。

リストアの実行

リストア ジョブを行うには、バックアップ ファイルの抽出元であるデータ ソースと、バックアップ ファイルのリストア先となるデスティネーションが必要です。Lotus Domino からデータをリストアするには、リストア マネージャを使用してリストア ジョブを設定しサブミットする必要があります。

バックアップ データのリストア方法

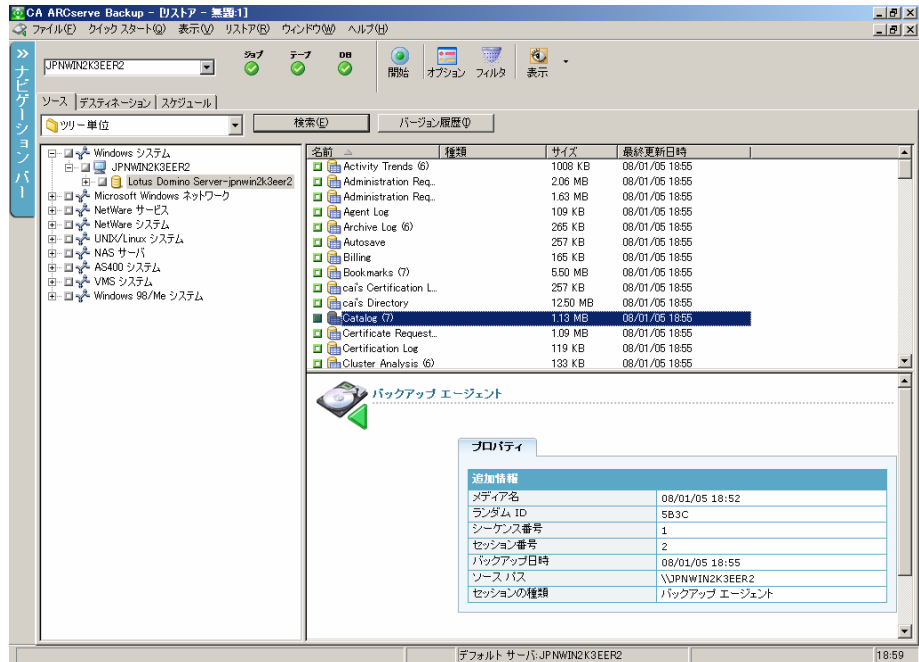
1. CA ARCserve Backup ホーム画面で、リストア マネージャのアイコンをクリックします。リストア マネージャのメイン ウィンドウが開きます。

重要: ツリー単位方式を選択した場合は、Lotus Domino サーバの内容全体をまとめてリストアすることはできないため、代わりに従属するすべてのオブジェクトを個々に選択する必要があります（対応するサーバのボックスは灰色が無効になっています）。セッション単位方式を選択した場合は、Lotus Domino サーバの内容全体をまとめてリストアできます。従属するすべてのオブジェクトを個々に選択する必要はありません（対応するサーバのボックスは緑色が有効になっています）。

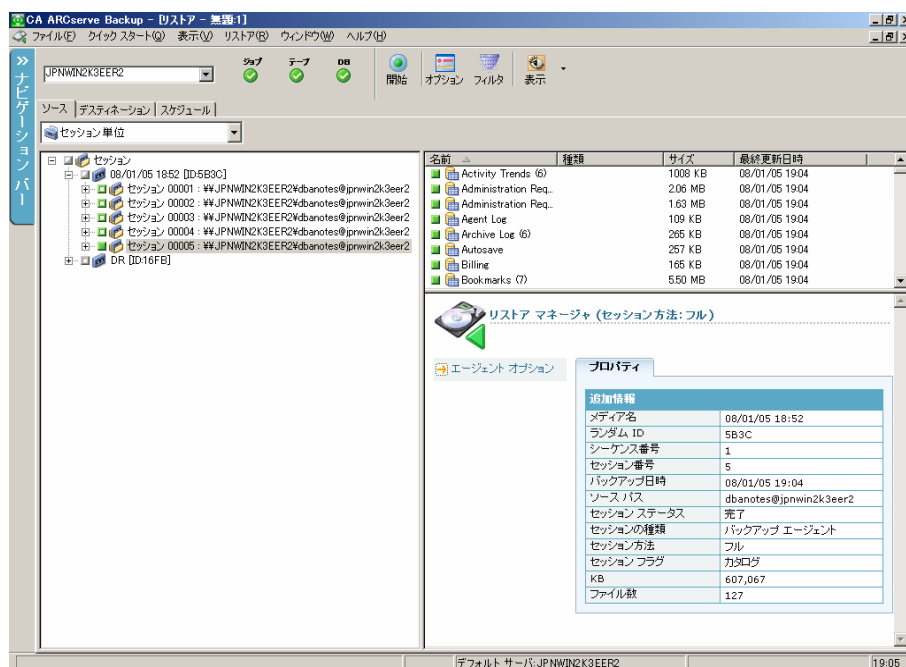
2. [ソース]タブのドロップダウン メニューから、適切なリストア方式を選択します。対応するソース ツリーに表示されるオプションは、選択した方式によって異なります。

注: CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino では、[ツリー単位]方式と[セッション単位]方式のみがサポートされています。

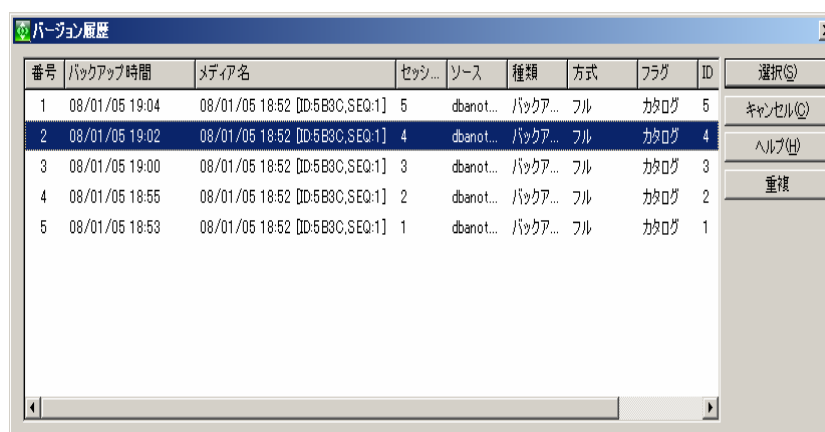
ツリー単位方式を選択すると、以下の画面が表示されます。



セッション単位方式を選択すると、以下の画面が表示されます。



- (オプション) ツリー単位方式を選択すると、ツリーには前回完了したバックアップジョブのみが表示されます。それ以外のバックアップジョブをリストアしたい場合は、適切なサーバ名を選択して[バージョン履歴]オプションを有効にし、[バージョン履歴]をクリックします。[バージョン履歴]ダイアログボックスが開き、以前にバックアップされたすべてのバージョンのデータベースのリストが表示されます。リストアするバージョンを選択して[選択]をクリックします。以下に例を示します。



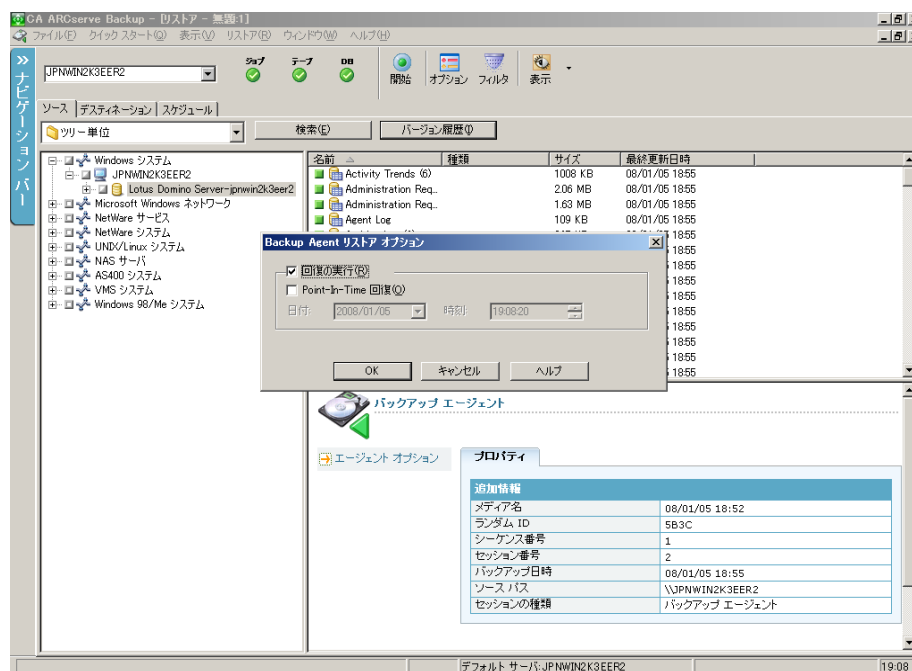
4. ソース ツリーで、必要に応じて各レベルを選択して展開し、リストア対象のオブジェクトを含む適切な Lotus Domino サーバを表示します。ブラウザの右側のペインに、各データベースの情報が表示されます。

注：バックアップ中に Lotus Domino のアーカイブ スタイルのトランザクション ログ オプションを有効にした場合、展開された Lotus Domino サーバのツリーに最初に表示されるのはトランザクション ログのアイコンです。ただし、アーカイブ済みのログ ファイルが 1 つもない場合、トランザクション ログのアイコンは表示されません。

5. リストア対象のオブジェクトに対応するボックスが緑一色(フル リストア)になるまでクリックして、オブジェクトを選択します。

セッション単位方式を選択した場合は、サーバ名の横の対応するボックスが緑色になるまでクリックすると、Lotus Domino サーバ全体をまとめてリストアすることができます。個々のデータベース ファイルまたはトランザクション ログ ファイルをリストアするには、各オブジェクト名の横の対応するボックスが緑色になるまでクリックして、個々のファイルを選択する必要があります。

6. リストア対象のオブジェクトを含む Lotus Domino サーバ名を右クリックして、[エージェント オプション]を選択します。以下のような[エージェント リストア オプション]ダイアログ ボックスが開きます。



7. [エージェント リストア オプション]ダイアログ ボックスで、適切なリストア オプション([回復の実行]または[Point-In-Time 回復])を選択して[OK]をクリックします。

注: Point-In-Time 回復を選択するには、[回復の実行]と[Point-In-Time 回復]の両方のオプションを選択する必要があります。完全回復を選択するには、[回復の実行]オプションのみを選択します。[エージェント リストア オプション]は、トランザクション ログが有効な Lotus Domino サーバのみに適用されます。

8. リストア方式とオブジェクトの選択が完了したら、リストア マネージャのメイン ウィンドウにある[デスティネーション]タブをクリックして、このタブのページを開きます。

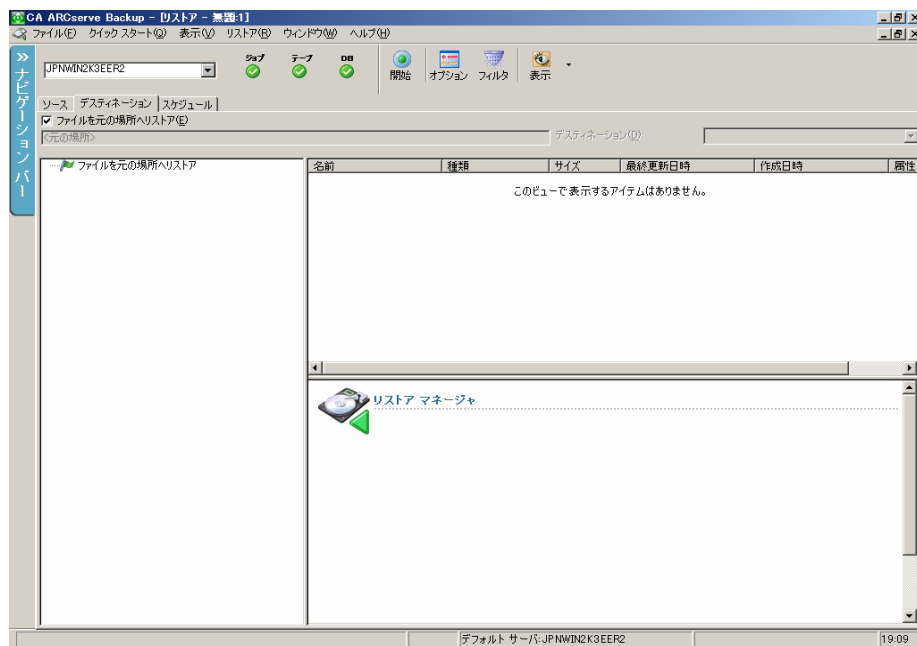
注: CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino には、元の場所へのデータのリストア(デフォルトのオプション)と、対応するオブジェクト ツリーを使用した別の場所へのデータのリストアという、2 つのデスティネーション オプションがあります。Lotus Domino サーバ内の元の場所や別の場所にデータをリストアすることは可能ですが、別の Lotus Domino サーバにリストアすることはできません。

重要: バックアップを実行した後は、Lotus Domino サーバの名前を変更しないでください。リストア ジョブでは常に、バックアップされたものと同じ Lotus Domino サーバの設定を使用します。Lotus Domino サーバの名前を変更した場合、リストアを実行するには、レジストリ キー、PreviousInstanceName を手動で設定する必要があります。

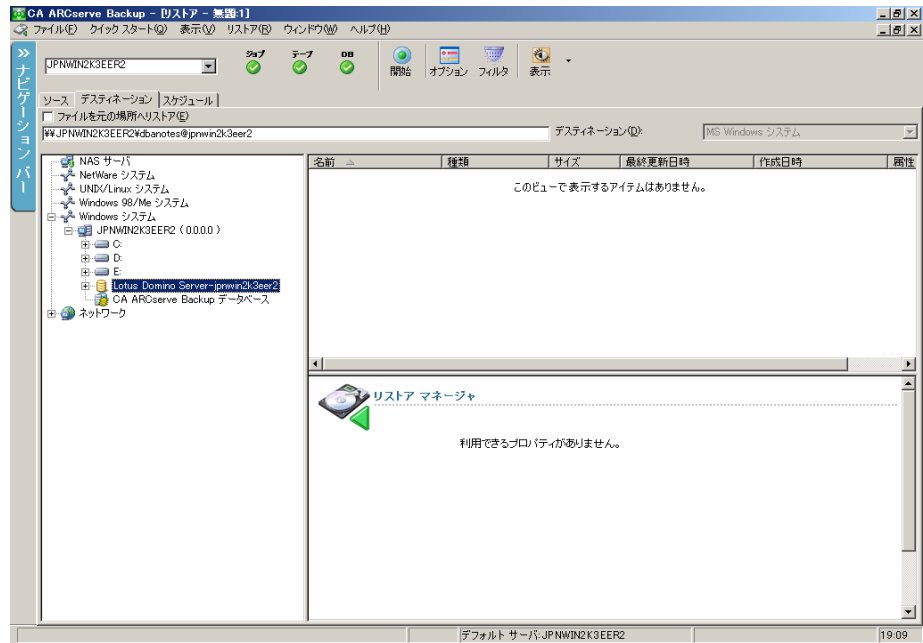
注: Lotus Domino サーバ名の長さが 30 文字より長い場合、CA ARCserve Backup は 30 文字の制限を超える余分な部分を自動的に切り捨て、文字列の最後の 2 文字(29 および 30 文字目)を 01 で置き換えます。同じ名前の Lotus Domino サーバが別に存在する場合、CA ARCserve Backup は再度名前を 30 文字に切り捨て、文字列の最後の 2 文字を 02 で置き換えます。たとえば、以下ようになります。

- Lotus Domino サーバが以下のような名前だとします。
「User1223334444555556666677777777」(32 文字)
- CA ARCserve Backup は、名前を 30 文字に切り捨て、残り最後の 2 文字を以下のように変更します。
「User1223334444555556666677701」(30 文字)
- 前と同じ名前を使用して Lotus Domino サーバを作成すると、CA ARCserve Backup は以下のように名前を変更します。
「User1223334444555556666677702」(30 文字)

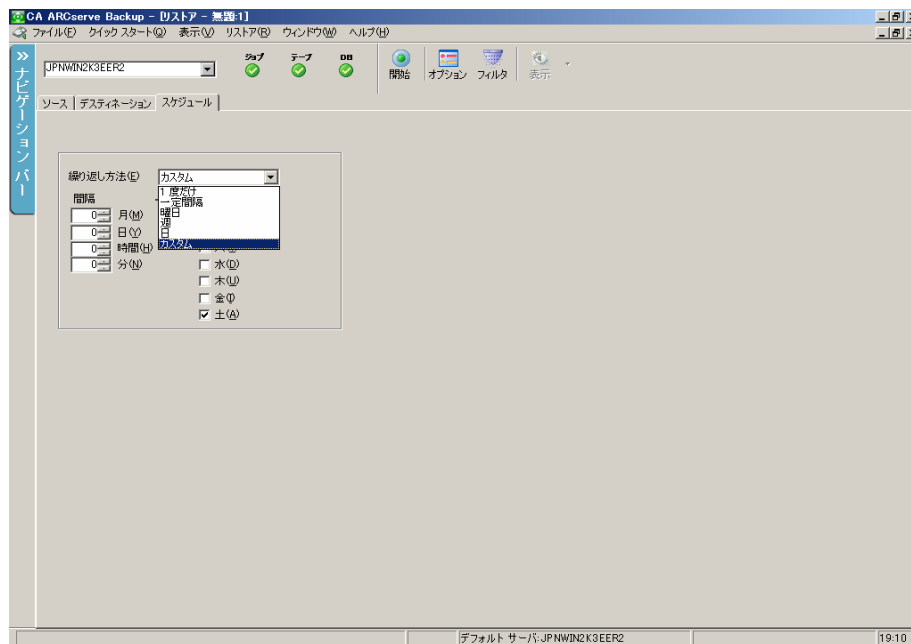
9. リストアするデータのデスティネーションを選択します。元の場所にデータをリストアすることも、別の場所にデータをリストアすることもできます。
 - a. データベース ファイルを元の場所にリストアするには、[ファイルを元の場所にリストア]チェック ボックスをオンにします。自動的に、デスティネーション ウィンドウに[ファイルを元の場所にリストア]エントリが以下の例で示すように表示されます。



- b. デスティネーション オブジェクト ツリーを使用してデータベース ファイルを別の場所にリストアするには、[ファイルを元の場所にリストア]チェック ボックスをオフにし、データのリストア先となるデスティネーションを選択します。以下に例を示します。



10. [スケジュール]タブをクリックし、[繰り返し方法]ドロップ ダウン リストから[1 度だけ]または適切な繰り返し方法([一定間隔]、[曜日]、[週]、[日]または[カスタム])を選択します。以下に例を示します。

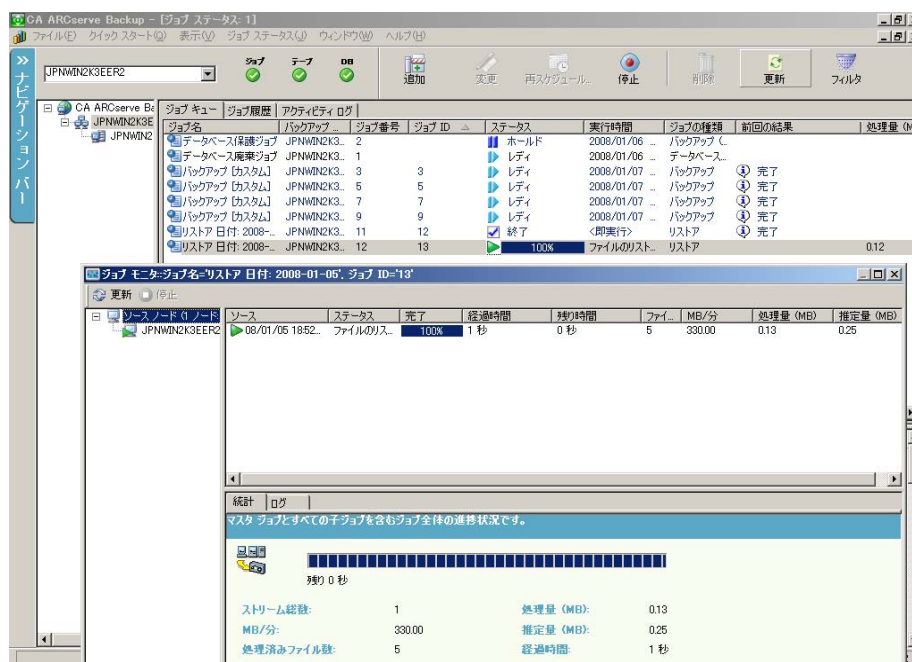


11. すべてのリストア ジョブ属性が完成したら、[開始]をクリックしてリストア処理を開始します。リストアを実行しようとしているホストの[セッション ユーザ名およびパスワード]ダイアログ ボックスが開きます。

注：セッション パスワードが必要なのは、バックアップ処理中にセッション パスワードを指定した場合のみです。

12. 選択したサーバ ホストおよびバックアップ セッションに必要なセキュリティ アクセス情報(ユーザ名とパスワード)を入力します(必要な場合)。セッション オプションの詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。ローカルで行うリストア ジョブの場合、セキュリティ情報は必要ありません。

13. [OK]をクリックします。[ジョブのサブミット]ダイアログ ボックスが開き、ジョブの種類およびデスティネーション ディレクトリのサマリが表示されます。必要に応じて、[ジョブの詳細]フィールドにジョブの説明を入力します。
14. [ジョブ実行時刻]で[即実行] (すぐにリストアを実行) または[実行日時指定] (リストアの日時を定義) を選択し、[OK]をクリックしてリストア ジョブをサブミットします。[ステータス]画面が開き、[ジョブ キュー]と[ジョブ詳細]が表示されます。サーバ名を右クリックして[プロパティ]を選択すると、より詳細なジョブ モニタ情報も表示されます。[ジョブ モニタ]ウィンドウが開き、リストア プロセスの詳細とステータスが表示されます。以下に例を示します。



15. リストア ジョブが完了すると、ステータス ウィンドウが開き、リストア ジョブの最終ステータス(成功または失敗)が以下の例で示すように表示されます。[OK]ボタンをクリックしてステータス ウィンドウを閉じます。

増分バックアップを使用したデータのリストア

増分バックアップ セッションを含むフル バックアップから完全なリストア ジョブを実行する方法

1. フル バックアップ セッションからすべてのトランザクション ログをリストアします。
2. フル バックアップ以降、指定した日時までに作成したすべての増分バックアップ セッションからトランザクション ログをリストアします。
3. フル バックアップ セッションからすべてのデータベース ファイル (トランザクション ログは除く) をリストアします。
4. フル バックアップ以降、指定した日時までに作成したすべての増分バックアップ セッションからすべてのデータベース ファイル (トランザクション ログは除く) をリストアします。

注: アーカイブされたログ ファイルが存在しない場合、またはアーカイブスタイルのトランザクション ログ オプションが有効になっている Lotus Domino サーバに新しい DBIID が割り当てられていない場合は、増分バックアップ セッションが空になっていることがあります。

差分バックアップを使用したデータのリストア

差分バックアップ セッションを含むフル バックアップから完全なリストア ジョブを実行する方法

1. フル バックアップ セッションからすべてのトランザクション ログをリストアします。
2. 前回の差分バックアップ セッションからトランザクション ログをリストアします。
3. フル バックアップ セッションからすべてのデータベース ファイル (トランザクション ログは除く) をリストアします。
4. 前回の差分バックアップ セッションからすべてのデータベース ファイル (トランザクション ログは除く) をリストアします。

エージェントを使用した惨事復旧の実行

惨事の発生後にデータが失われるリスクを最小限にするためにもっとも重要なことは、すべてのサーバおよびワークステーションの最新のバックアップを取っておくことです。定期的にバックアップを実行しなければ、ハード ディスク障害などの惨事が発生した場合に、CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino の Lotus Domino データを復旧する機能が制限されます。必ず、バックアップを頻繁に更新するメディア ローテーション スケジュールを作成し、最新のフル バックアップを保持するようにしてください。惨事が発生した場合に、CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino を使用して、すばやく効率的に Lotus Domino サーバを復旧することができます。Windows システムの惨事復旧の詳細については、「Disaster Recovery Option ユーザ ガイド」を参照してください。

エージェントを使用して惨事復旧を行う方法は、Lotus Domino サーバの設定によって異なります。

アーカイブされたトランザクション ログが有効な場合の惨事復旧の実行

惨事が発生したときに Lotus Domino のアーカイブスタイルのトランザクション ログ オプションが有効な場合は、以下の手順で Lotus Domino サーバのデータベースを復旧できます。

アーカイブされたトランザクション ログが有効な場合に Lotus Domino サーバのデータベースを復旧する方法

1. Lotus Domino サーバ プログラム ディレクトリをすべてリストアまたは再インストールします。リストア後にサーバの再起動が必要になる場合があります。

重要: データ損失の規模によっては、Lotus Domino サーバを新たにインストールし、設定する必要があります。新しくインストールするサーバは、必ず、障害が発生したサーバと同じ方法で、同じディレクトリ構造、場所、およびディレクトリ パスになるように設定してください。ただし、この時点では新しいサーバを起動しません。

2. データが失われる前に保存した最新の notes.ini、cert.id および server.id の各ファイルをリストアします。リストア後にサーバの再起動が必要になる場合があります。

3. ログ ディレクトリ(logdir)を準備します。notes.ini ファイルで定義されているログ ディレクトリ(デフォルト: logdir)が存在し、ログ ディレクトリに以前のファイルがないことを確認します。惨事復旧処理を成功させるには、以前のインストール環境に入っていたトランザクション ログ コントロール ファイル(nlogctrl.lfh)およびログ ファイル(.txn)を削除する必要があります。

4. CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino を使用してデータベース ファイルを Lotus Domino のデータ ディレクトリにリストアします。ただし、トランザクション ログは無効にしておきます。[回復の実行]オプションを選択しないでください。

注: 最初にフル セッション バックアップでデータベース ファイルをリストアしてから、フル バックアップ以降の増分セッション バックアップでデータベース ファイルをリストアするか、前回の差分セッション バックアップからデータベース ファイルをリストアします。[回復の実行]オプションが選択されていないことを確認してください。

5. アーカイブされたログ イベントをリストアします。バックアップ ファイルは、前回アーカイブされたトランザクション ログの範囲で、前回バックアップされたトランザクションに回復することができます。

注: フル バックアップ以降の増分セッション バックアップでトランザクション ログ ファイルをリストアするか、前回の差分セッション バックアップからリストアします。フル セッション バックアップでログ ファイルをリストアする必要はありません。

6. ログ ディレクトリ(logdir)を確認します。
 - a. ログ ディレクトリが空の場合は、notes.ini ファイル内の以下のパラメータが設定されていることを確認して、手順 11 に進みます。

TRANSLLOG_Recreate_Logctrl = 0

- b. ログ ディレクトリが空でない場合は、以下のパラメータを notes.ini ファイルで設定して、新しいコントロール ファイルの作成を簡略化します。

TRANSLLOG_Recreate_Logctrl = 1

7. Lotus Domino サーバを再起動し、その後シャット ダウンします。
8. 新しいコントロール ファイルの作成を無効にするには、notes.ini のパラメータ値を以下のように変更します。

TRANSLLOG_Recreate_Logctrl = 0

注: ほかに、notes.ini ファイルから以下のパラメータを削除した場合も、新しいコントロール ファイルの作成を無効にすることができます。

TRANSLLOG_Recreate_Logctrl = 1

9. 共有メールをリストアする必要がある場合は、共有メールをリストアする前に以下の手順を実行します。
 - a. Lotus Domino サーバを起動します。
 - b. 共有メールをオフラインにします。
 - c. Lotus Domino サーバをシャット ダウンします。

注：必ず、Lotus Domino サーバをシャット ダウンしてから、データベース ファイルをリストアしてください。
10. データベース ファイルを復旧するには、CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino を使用して再度 Lotus Domino データベース ディレクトリにデータベース ファイルをリストアします。ただし、このときは[回復の実行]オプションを選択します。

注：最初にフル セッション バックアップでデータベース ファイルを回復して、フル バックアップ以降の増分セッション バックアップでデータベース ファイルを回復するのは、その増分セッションの後にバックアップされたアーカイブ ログ ファイルが存在する場合のみです。差分セッション バックアップでデータベース ファイルを回復する必要はありません。
11. 新しくインストールした Lotus Domino サーバを起動します。惨事復旧処理が完了すると、安全に Lotus Domino サーバを起動してサーバのタスクや機能を実行できるようになります。

循環トランザクション ログが有効な場合の惨事復旧の実行

惨事が発生したときに Lotus Domino の循環スタイルのトランザクション ログ オプションが有効な場合は、以下の手順で Lotus Domino サーバのデータベースを復旧できます。

循環トランザクション ログが有効な場合に Lotus Domino サーバのデータベースを復旧する方法

1. Lotus Domino サーバ プログラム ディレクトリをすべてリストアまたは再インストールします。リストア後にサーバの再起動が必要になる場合があります。

重要：データ損失の規模によっては、Lotus Domino サーバを新たにインストールし、設定する必要があります。新しくインストールするサーバは、必ず、障害が発生したサーバと同じ方法で、同じディレクトリ構造、場所、およびディレクトリ パスになるように設定してください。ただし、この時点では新しいサーバを起動しません。
2. データが失われる前に保存した最新の notes.ini、cert.id および server.id の各ファイルをリストアします。リストア後にサーバの再起動が必要になる場合があります。

3. ログ ディレクトリ(logdir)を準備します。惨事復旧処理を成功させるには、以前のインストール環境に入っていたトランザクション ログ コントロール ファイル (nlogctrl.lfh) およびログ ファイル(.txn)を削除する必要があります。
4. 新しいコントロール ファイルの作成を簡単にするには、notes.ini ファイルで以下のパラメータを設定します。

TRANSLOG_PATH = LOGDIR
5. CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino を使用して、Lotus Domino データ ディレクトリにデータベース ファイルをリストアします。[回復の実行]オプションを選択しないでください。
6. 新しくインストールした Lotus Domino サーバを起動します。惨事復旧処理が完了すると、安全に Lotus Domino サーバを起動してサーバのタスクや機能を実行できるようになります。

トランザクション ログが無効な場合の惨事復旧の実行

惨事が発生したときに Lotus Domino のトランザクション ログ オプションが無効な場合は、以下の手順で Lotus Domino サーバのデータベースを復旧できます。

トランザクション ログ オプションが無効な場合に Lotus Domino データベースを復旧する方法

1. Lotus Domino サーバ プログラム ディレクトリをすべてリストアまたは再インストールします。リストア後にサーバの再起動が必要になる場合があります。

重要: データ損失の規模によっては、Lotus Domino サーバを新たにインストールし、設定する必要があります。新しくインストールするサーバは、必ず、障害が発生したサーバと同じ方法で、同じディレクトリ構造、場所、およびディレクトリ パスになるように設定してください。ただし、この時点では新しいサーバを起動しません。
2. データが失われる前に保存した最新の notes.ini、cert.id および server.id の各ファイルをリストアします。リストア後にサーバの再起動が必要になる場合があります。
3. CA ARCserve Backup Agent RPC Server を再起動します。

注: 必ず、Lotus Domino サーバをシャット ダウンしてから、データベース ファイルをリストアしてください。
4. CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino を使用して、Lotus Domino データ ディレクトリにデータベース ファイルをリストアします。
5. 新しくインストールした Lotus Domino サーバを起動します。惨事復旧処理が完了すると、安全に Lotus Domino サーバを起動してサーバのタスクや機能を実行できるようになります。

付録 A: トラブルシューティング

CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino には、それぞれのバックアップまたはリストア ジョブのステータスに関する情報が一覧になったアクティビティ ログが入っています。Windows NT、Windows 2000、Windows 2003 の各プラットフォームでは、バックアップ エージェントのログ ファイル(dbanotes.log)が CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino ホーム ディレクトリに格納されています。CA ARCserve Backup ジョブ ログにエラーが記録されている場合は、より詳細な情報について、該当エージェント ログをチェックする必要があります。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[デバッグ オプションの有効化](#) (49 ページ)

[一般的なエラー メッセージ](#) (50 ページ)

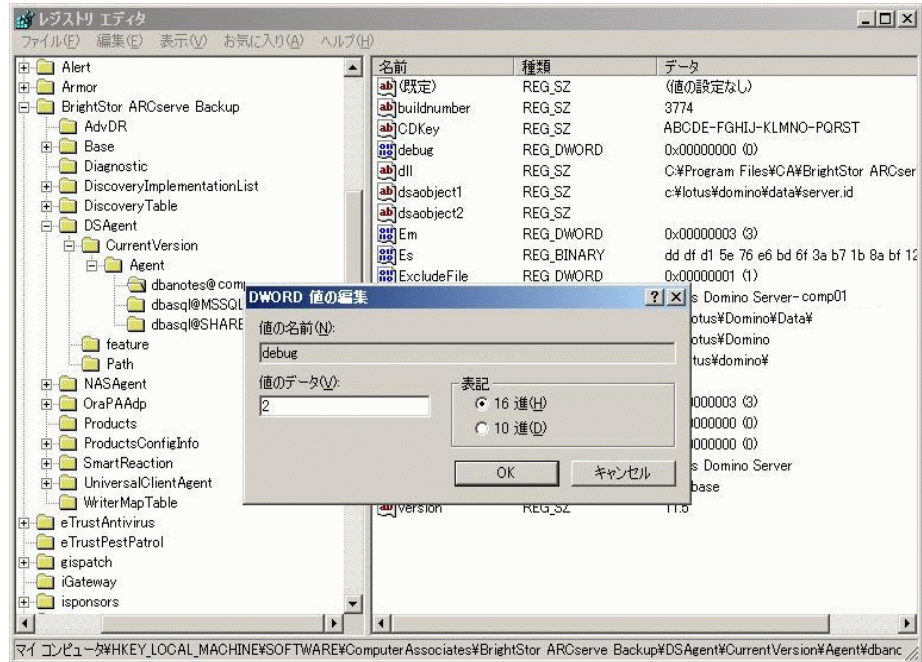
デバッグ オプションの有効化

CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino では、より詳細なデバッグ情報を受信するようにを設定することができます。この設定を行うには、レジストリ エディタを使用してデバッグ オプションを有効にし、対応するパラメータ値を設定します。デバッグ オプションを有効にすると、(対応する作業ディレクトリに) 追跡ファイルが生成されます。追跡ファイルの名前は dbanotes@servername.trc となります。servername には、選択した Lotus Domino サーバの実際の名前が入ります。たとえば、server213 用に生成される追跡ファイルは dbanotes@server213.trc となります。

デバッグのパラメータを設定することにより、デバッグのレベルや生成される追跡ファイルの範囲を指定することができます。追跡ファイルには、CA ARCserve Backup の実行中に発生するすべての問題、警告およびエラーが含まれます。追跡ファイルは、弊社のテクニカル サポート担当者がトラブルシューティング作業を行う際に利用します。

デバッグ オプションを有効にしてパラメータ値を設定する方法

1. レジストリ エディタから、適切な Lotus Domino サーバの dbanotes@servername ディレクトリを開きます。
2. debug:REG_DWORD オプションを選択してダブルクリックします。[DWORD 値の編集]ダイアログ ボックスが開きます。以下に例を示します。



3. デバッグ パラメータ値を 2 に設定すると、詳細な追跡ファイルが生成されます。

注: デバッグ パラメータ値を 1 に設定すると、一般的な追跡ファイルが生成されます。デバッグ パラメータ値を 0 に設定すると、追跡ファイルは生成されません。

4. [OK] ボタンをクリックします。

一般的なエラー メッセージ

このセクションでは、Windows NT、Windows 2000、Windows 2003 の各プラットフォームにインストールされた、CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino の、一般的なエラーのトラブルシューティング情報を説明します。

E8601

エージェントに接続できませんでした。(AGENT=エージェント名、EC=エラー メッセージまたはエラー コード)

原因: 1

ターゲット サーバ上の CA ARCserve Backup Agent RPC Server が実行されていません。

解決方法: 1

ターゲット サーバ上で CA ARCserve Backup Agent RPC Server が実行されていないことを確認します。

原因: 2

ターゲットのデータベースが停止しているか、アクセス不能です。

解決方法: 2

ターゲットのデータベースがターゲット サーバ上で実行されているか、またはターゲットのデータベース サーバがエラーを発生せずにオンライン状態なることを確認します。

原因: 3

ネットワーク経由でターゲット サーバにアクセスできなくなっている可能性があります。

解決方法: 3

すべてのネットワーク接続を確認します。

原因: 4

(Windows エラー 1326) ユーザ名またはパスワードの入力が正しくないか、ユーザ名にドメインまたはマシン名が指定されていないために、ターゲットのサーバでの認証に失敗した可能性があります。

解決方法: 4

マシン ログインのユーザ名とパスワードを確認します。データベースにログインするために使用されるユーザ名のドメイン修飾子を指定します。ドメイン ユーザの場合、以下のフォーマットを使用します。

<ドメイン名>\<ユーザ名>

原因: 5

(Windows エラー 1385) 指定されたユーザにバックアップを行う十分な権利がないために、マシンの認証に失敗した可能性があります。

解決方法: 5

ユーザが、データベース サーバ マシンのローカル セキュリティ ポリシーに「ファイルとディレクトリのバックアップ」権限を持っているか、またはこの権利を持つグループのメンバーであるかどうかを確認します。この権利を保有しているのは、一般的に Administrators グループおよび Backup Operators グループです。

原因: 6

(Windows エラー 1387) ユーザ名またはパスワードが正しくないために、マシンの認証に失敗した可能性があります。

解決方法: 6

マシン ログインのユーザ名とパスワードを確認します。データベースにログインするために使用されるユーザ名のドメイン修飾子を指定します。ドメイン ユーザの場合、以下のフォーマットを使用します。

<ドメイン名>\<ユーザ名>

原因: 7

Windows エラー 1314 - Windows にログインする十分な権限を持たないユーザが CA ARCserve Backup Agent RPC Server を実行しているために、マシンの認証に失敗した可能性があります。

解決方法: 7

コントロール パネルの[サービス] (Windows NT)、または[管理ツール]の[サービス] (Windows 2000、XP、2003)から、CA ARCserve Backup Agent RPC Server がローカル システム アカウントとして、または Backup Operators グループのメンバーであるユーザとして実行中であることを確認します。

CA ARCserve Backup Agent RPC Server が Backup Operators グループのメンバーであるユーザとして実行されている場合は、Backup Operators グループがデータベース ホスト サーバ コンピュータのローカル セキュリティ ポリシーの「オペレーティング システムの一部として機能」権限を持つことを確認します。

注: NAS デバイスまたはネットワーク共有デバイス上でデータベースをバックアップするためのホストサーバのログオン認証情報を確認するには、「エージェントの使用法」の章の「バックアップの準備」を参照してください。

原因: 8

メモリが不足している、エージェント DLL がエージェントのホーム ディレクトリに存在しない、またはレジストリの DLL パスが不正であるために、エージェント DLL のメモリへのロードに失敗した可能性があります。

解決方法: 8

ターゲット サーバのメモリに十分な空き容量があることを確認します。

原因: 9

notes.ini ファイルへのアクセスに失敗しました。

解決方法: 9

CA¥CA ARCserve Backup¥DSAgent¥CurrentVersion¥agent¥dbanotes@servername の下にあるレジストリ キー NotesIniDir を確認します。このパスが有効でアクセス可能であることを確認します。

原因: 10

dbanotesag.exe ファイルの起動に失敗しました。

解決方法: 10

タスク マネージャで、対応する dbanotesag.exe ファイルが実行されているかどうかを確認します。Lotus Domino サーバが正常に動作しているか、または Lotus Donimo サーバをオフラインで起動できるかどうかを確認します。CA ARCserve Backup Agent RPC Server を再起動します。

E8602

データベースからの読み込みに失敗しました。(DBNAME=オブジェクト名、EC=エラー メッセージまたはエラー コード)

原因: 1

エージェントが、バックアップ オブジェクトをデータベース サーバから CA ARCserve Backup に読み込もうとしたとき、またはデータベース サーバから読み込もうとしたときに、内部エラーまたは通信エラーが発生しました。

解決方法: 1

エージェントを実行しているサーバ上で、以下の手順を実行します。

1. データベース エージェントが稼働していることを確認します。
2. バックアップを実行するデータベース インスタンス上で他のバックアップ ジョブやリストア ジョブが実行されていないことを確認します。
3. Backup Agent RPC Server サービスを再起動します。
4. バックアップ ジョブを再サブミットしてください。

問題が再発する場合は、ネットワーク接続を確認します。問題が解決しない場合は、弊社のテクニカル サポートにお問い合わせください。

原因: 2

ネットワーク エラーが発生しました。

解決方法: 2

すべてのネットワーク関連のハードウェアにおける通信、タイムアウト、ドライバ、および設定の不整合など、発生する可能性のあるネットワークの問題を確認します。

原因: 3

Lotus Domino データ ディレクトリが存在するドライブが共有されていません。

解決方法: 3

Windows エクスプローラで、Lotus Domino データ ディレクトリが存在するドライブの共有プロパティ ダイアログ ボックスを開き、ドライブが共有できるように設定されていることを確認します。

E8603

データベースへの書き込みに失敗しました。(DBNAME=オブジェクト名、EC=エラー メッセージまたはエラー コード)

原因: 1

エージェントが、データ ストリームを **CA ARCserve Backup** からデータベース サーバのターゲット オブジェクト(DBNAME=オブジェクト名)に書き込むと、このエラーが発生します。

解決方法: 1

詳細については、エージェントのログ ファイルを確認します。

原因: 2

Lotus Domino サーバの増分または差分セッションのリストアに失敗しました。

解決方法: 2

増分バックアップまたは差分バックアップをリストアする前に、最新のフル バックアップセッションをリストアします。

原因: 3

データベースが使用されているために、オンラインでリストアできません。このエラーは共有違反を意味しており、データベースが開いていることを示しています。

解決方法: 3

再度エラーが発生した場合は、30 分ほど待ってから再度リストア ジョブをサブミットしてみてください。それでもまだ問題が発生する場合は、Lotus Domino サーバを停止し、オフラインでデータベースのリストアを行ってください。共有メールは、リストアする前に、Lotus Domino の管理者がオフラインにする必要があります。

原因: 4

エージェントは CA ARCserve Backup マネージャ インターフェースへの名前付きパイプ接続を確立できませんでした。

解決方法: 4

エージェントを実行しているサーバ上で、以下の手順を実行します。

1. Backup Agent RPC Server サービスを再起動します。
2. 可能であれば、ウイルス対策ソフトウェアを無効にして、これが競合していないかを確認し、名前付きパイプ スキャンを無効にして潜在的な競合を防止します。
3. エージェント マシンに対して開いている共有をすべて切断し、バックアップをもう一度実行します。CA ARCserve Backup マネージャ インターフェースがインストールされているマシンから、開いている共有を切断するには、[マイ コンピュータ]を右クリックし、[ネットワーク ドライブの切断]を選択するか、コマンド プロンプトで net use コマンドを使用します。

E8604

バックアップを開始できません。(DBNAME=オブジェクト名、EC=エラー メッセージまたはエラーコード)

原因: 1

(Windows エラー 1326) ユーザ名またはパスワードの入力が正しくないか、ユーザ名にドメインまたはマシン名が指定されていないために、ターゲットのサーバでの認証に失敗した可能性があります。

解決方法: 1

マシン ログインのユーザ名とパスワードを確認します。データベースにログインするために使用されるユーザ名のドメイン修飾子を指定します。ドメイン ユーザの場合、以下のフォーマットを使用します。

<ドメイン名>\<ユーザ名>

原因: 2

(Windows エラー 1385) 指定されたユーザにバックアップを行う十分な権利がないために、マシンの認証に失敗した可能性があります。

解決方法: 2

ユーザが、データベース サーバ マシンのローカル セキュリティ ポリシーに「ファイルとディレクトリのバックアップ」権限を持っているか、またはこの権利を持つグループのメンバーであるかどうかを確認します。この権利を保有しているのは、一般的に Administrators グループおよび Backup Operators グループです。

原因: 3

(Windows エラー 1387) ユーザ名またはパスワードが正しくないために、マシンの認証に失敗した可能性があります。

解決方法: 3

マシン ログインのユーザ名とパスワードを確認します。データベースにログインするために使用されるユーザ名のドメイン修飾子を指定します。ドメイン ユーザの場合、以下のフォーマットを使用します。

<ドメイン名>\<ユーザ名>

原因: 4

Windows エラー 1314 - Windows にログインする十分な権限を持たないユーザが CA ARCserve Backup Agent RPC Server を実行しているために、マシンの認証に失敗した可能性があります。

解決方法: 4

コントロール パネルの[サービス] (Windows NT)、または[管理ツール]の[サービス] (Windows 2000、XP、2003)から、CA ARCserve Backup Agent RPC Server がローカル システム アカウントとして、または Backup Operators グループのメンバであるユーザとして実行中であることを確認します。

CA ARCserve Backup Agent RPC Server が Backup Operators グループのメンバであるユーザとして実行されている場合は、Backup Operators グループがデータベース ホスト サーバ コンピュータのローカル セキュリティ ポリシーの「オペレーティング システムの一部として機能」権限を持つことを確認します。

注: NAS デバイスまたはネットワーク共有デバイス上でデータベースをバックアップするためのホストサーバのログオン認証情報を確認するには、「エージェントの使用法」の章の「バックアップの準備」を参照してください。

原因: 5

現在バックアップ中のデータベースのバックアップに失敗しました。

解決方法: 5

このエラーは、データベース ファイルがアプリケーションによってロックされていることを表しています。2 つの CA ARCserve Backup マネージャ インターフェースで同じ Lotus Domino データベースを同時にバックアップしようとしている場合は、いずれかのバックアップ ジョブを再スケジュールして競合を回避します。これを行わない場合は、Lotus Domino サーバをリサイクルする必要があります。

原因: 6

2 つの CA ARCserve Backup マネージャ インターフェースが、同じ Lotus Domino データベースを同時にバックアップしようとしています。

解決方法: 6

いずれかのバックアップ ジョブを再スケジュールして競合を回避します。

原因: 7

Lotus Domino データベースまたはディレクトリを開けませんでした。ID ファイルを開けません。

解決方法: 7

正しいサーバ ID ファイル(通常は server.id)が使用されていることを確認します。必要に応じて CA ARCserve Backup Agent for Lotus Domino の設定を修正します。エージェント設定の詳細については、「エージェントのインストール」の章の「サーバへのアクセス権の設定」を参照してください。

E8605

リストアを開始できません。(DBNAME=オブジェクト名、EC=エラー メッセージまたはエラーコード)

原因: 1

(Windows エラー 1326) ユーザ名またはパスワードの入力が正しくないか、ユーザ名にドメインまたはマシン名が指定されていないために、ターゲットのサーバでの認証に失敗した可能性があります。

<S> 1

マシン ログインのユーザ名とパスワードを確認します。データベースにログインするために使用されるユーザ名のドメイン修飾子を指定します。ドメイン ユーザの場合、以下のフォーマットを使用します。

<ドメイン名>\<ユーザ名>

原因: 2

(Windows エラー 1385) 指定されたユーザにリストアを行う十分な権利がないために、マシンの認証に失敗した可能性があります。

<S> 2

ユーザが、データベース サーバ マシンのローカル セキュリティ ポリシーに「ファイルとディレクトリのリストア」権限を持っているか、またはこの権利を持つグループのメンバであるかどうかを確認します。この権利を保有しているのは、一般的に Administrators グループおよび Backup Operators グループです。

原因: 3

(Windows エラー 1387) ユーザ名またはパスワードが正しくないために、マシンの認証に失敗した可能性があります。

<s> 3

マシン ログインのユーザ名とパスワードを確認します。データベースにログインするために使用されるユーザ名のドメイン修飾子を指定します。ドメイン ユーザの場合、以下のフォーマットを使用します。

<ドメイン名>\<ユーザ名>

原因: 4

Windows エラー 1314 - Windows にログインする十分な権限を持たないユーザが CA ARCserve Backup Agent RPC Server を実行しているために、マシンの認証に失敗した可能性があります。

<s> 4

コントロール パネルの[サービス] (Windows NT)、または[管理ツール]の[サービス] (Windows 2000、XP、2003)から、CA ARCserve Backup Agent RPC Server がローカル システム アカウントとして、または Backup Operators グループのメンバであるユーザとして実行中であることを確認します。

CA ARCserve Backup Agent RPC Server が Backup Operators グループのメンバであるユーザとして実行されている場合は、Backup Operators グループがデータベース ホスト サーバ コンピュータのローカル セキュリティ ポリシーの「オペレーティング システムの一部として機能」権限を持つことを確認します。

注: NAS デバイスまたはネットワーク共有デバイス上でデータベースをバックアップするためのホストサーバのログオン認証情報を確認するには、「エージェントの使用法」の章の「バックアップの準備」を参照してください。

E8617

リストアを終了できません。(DBNAME=オブジェクト名、EC=エラー メッセージまたはエラーコード)

原因: 1

エージェントが、リストア ジョブの後でデータベース サーバの回復に失敗しました。これは、エージェントまたはデータベース サーバに内部エラーが発生したことを表しています。

解決方法: 1

詳細については、エージェントのログ ファイルを確認します。

原因: 2

Point-In-Time リストアおよび回復の実行に失敗しました。回復の実行にはログ ファイルが必要です。

解決方法: 2

まず必要なトランザクション ログ ファイルをリストアしてから、Point-In-Time 回復を再度実行します。

原因: 3

データベースが最新のコピーではありません。

解決方法: 3

データベース ファイル DBIID が変更されています。このエラーでは、Point-In-Time 回復を実行できません。DBIID を変更したら、すぐにフル バックアップ ジョブをスケジュールする必要があります。

原因: 4

バックアップが、指定した回復時刻よりも後に行われました。

解決方法: 4

指定した Point-In-Time 日時が正しく設定されていることを確認します。このリストア オプションは、[エージェント リストア オプション]ダイアログ ボックスに表示されます。このダイアログ ボックスを開くには、適切な Lotus Domino サーバを選択し、右クリックして[エージェント オプション]を選択します。

8617a

データベースのリスト作成に失敗しました。

原因:

このエラーは、Lotus Domino サーバが起動していないことを示します。

解決方法:

Lotus Domino サーバを起動します。

索引

D

DBIID - 10

P

[Point-In-Time 回復]オプション - 35

あ

インストール

前提条件 - 15

インストールの前提条件 - 15

エージェント

アーキテクチャ - 9

アンインストール - 20

インストール - 16

インストールの前提条件 - 15

環境設定 - 16

機能 - 8

セキュリティ - 16

デバッグ オプション - 49

フロー図 - 9

利点 - 7

レジストリのパラメータの変更 - 19

エージェントのアンインストール - 20

エージェントのインストール - 16

エラー メッセージ - 50

オプション

Point-In-Time 回復 - 35

回復の実行 - 35

か

回復 - 8

[回復の実行]オプション - 35

カスタマ サポート、お問い合わせ - iv

環境設定

エージェント - 16

セキュリティ - 16

レジストリ エディタ - 17

さ

サーバ

エージェント - 8

パーティション - 8

差分バックアップ

概要 - 8

データのリストア - 44

サポート、お問い合わせ - iv

惨事復旧

アーカイブされたトランザクション ログが有効な
場合 - 45

概要 - 45

循環トランザクション ログが有効な場合 - 47

トランザクション ログが無効な場合 - 48

実行

バックアップ - 25

リストア - 36, 44

自動繰り返しバックアップ - 13

準備

リストア - 33

図 - 9

[スケジュール]タブ

バックアップ - 24

リストア - 34

セキュリティ アクセス - 17

増分バックアップ

概要 - 8

データのリストア - 44

[ソース]タブ

バックアップ - 24

リストア - 34

た

データベース

インスタンス ID (DBIID) - 10

回復時間 - 13

重要性 - 12

バックアップの好機 - 12

変動性 - 12

テクニカル サポート、お問い合わせ - iv

テクニカル サポートへのお問い合わせ - iv

[デスティネーション]タブ

バックアップ - 24

リストア - 34

デバッグ オプション - 49

トラブルシューティング - 50

は

パーティション サーバ - 8

バックアップ

計画時の考慮事項 - 11

差分 - 8

実行 - 25

自動繰り返し - 13

[スケジュール]タブ - 24

増分 - 8

[ソース]タブ - 24

[デスティネーション]タブ - 24

フル - 8

方式 - 24

マネージャ - 23

バックアップ計画

一般的な考慮事項 - 11

回復時間 - 13

計画 - 11

データベース サイズ - 12

データベースの重要性 - 12

データベースの変動性 - 12

バックアップの好機 - 12

バックアップの自動繰り返し - 13

フル バックアップ - 8

フロー図 - 9

方式

イメージ/サーバレス モードでリストア - 34

照会単位のリストア - 34

セッション単位のリストア - 34

ツリー単位でリストア - 34

バックアップ - 24

メディア単位のリストア - 34

実行 - 36, 44

準備 - 33

照会単位方式 - 34

[スケジュール]タブ - 34

セッション単位方式 - 34

増分バックアップによるデータ - 44

[ソース]タブ - 34

ツリー単位方式 - 34

定義 - 8

[デスティネーション]タブ - 34

方式 - 34

イメージ/サーバレス モードでリストア - 34

照会単位のリストア - 34

セッション単位のリストア - 34

ツリー単位でリストア - 34

メディア単位のリストア - 34

マネージャ - 33

メディア単位方式 - 34

リストア オプション

Point-In-Time 回復 - 35

回復の実行 - 35

利点 - 7

レジストリ エディタ - 17

レジストリのパラメータ

debug - 19

dll - 19

dsaobject - 19

NotesDataPath - 19

NotesHomeDir - 19

NotesIniDir - 19

PreviousInstanceName - 19

変更 - 19

ま

マネージャ

バックアップ - 23

リストア - 33

ら

リストア

イメージ/サーバレス方式 - 34

オプション - 35

差分バックアップによるデータ - 44